



神に奪われた男
と
神に奪われた女

モノクロ 本文51ページ



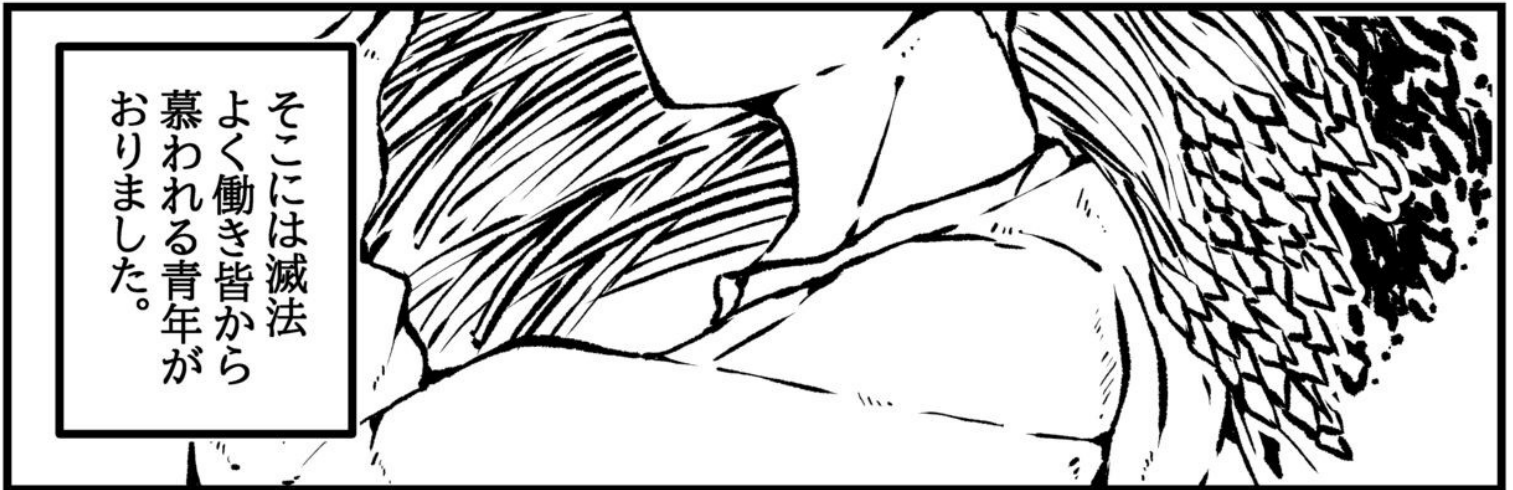
神に奪われた女

と

神に奪われた男



むかしむかし
ある所に農業が
盛んな村が
ありました…



そこには滅法
よく働き皆から
慕われる青年が
おりました。



あにさま！

あにさま！

兄様
お疲れ様です

彼女の名前はリアン
村長の一人娘である。
彼の事を兄と慕い
そして愛している。


キラ

彼とリアンは婚約を
しており来年には
婚礼の儀を行い夫婦に
なる予定だ。


村長の娘
リアン

ザ

ツ




しかしその幸せを
壊すかのよう
豪雨や地震などの
異常な災害が
この村を襲った：




村長たちは
その対策の為に
土地神に頼るか
どうか話し合った。




土地神様に
頼るしか
無からう！！



しかしそんな迷信を
信じて生け贄を
捧げるなんて：



もう解決策がない
土地神に生け贄を
捧げよう



こうして
村の人々は
生け贄を捧げる
ことを決めたの
であった。

神の贄に
選ばれたのは
リアンであった。

すまないね…

ごめんね…

彼女は自分の
意思で生贄になる
ことを選択した。

村のために
私ができる
事があるなんて
光栄ですと
彼女は言った

俺には
その笑顔が
悲しいように
見えた…

土地神の元へ
行く前日の夜…

兄様…
起きていますか？
私です…
リアンです



その恰好は…

ふんふん…



お願いがあつて
来ました…



だから私を…
わたしを…



明日になったら
私は生贄になります…
兄様とも別れることに…

抱いて

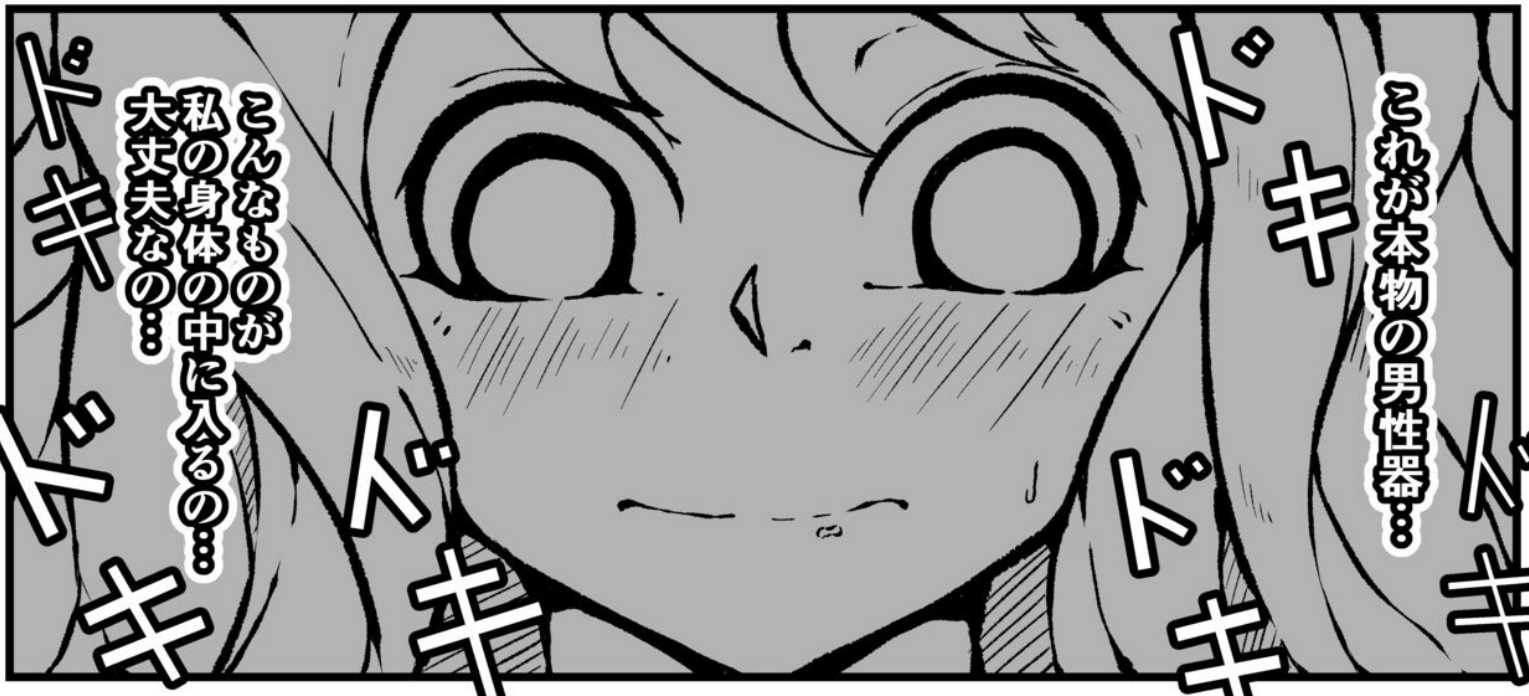
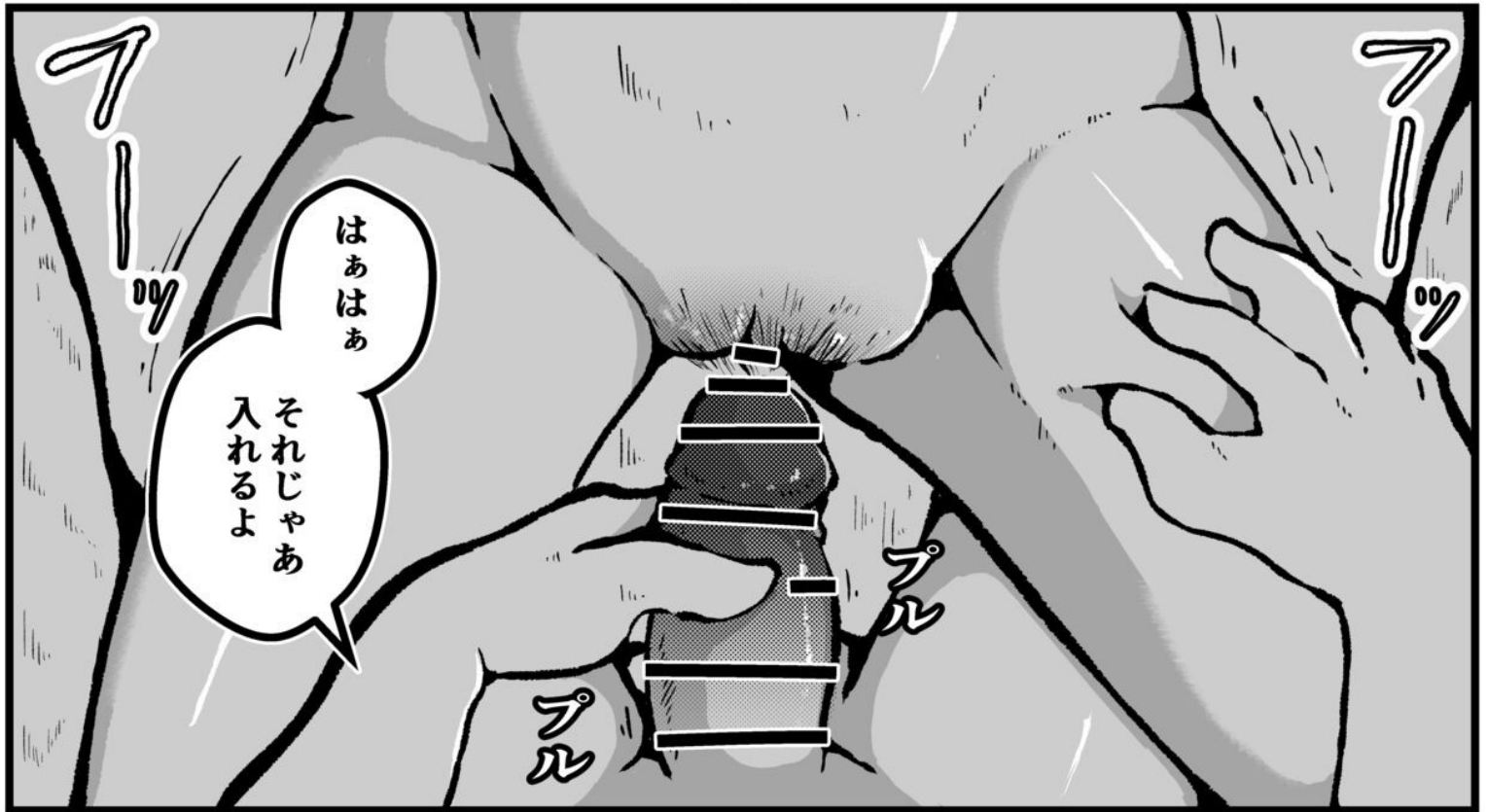
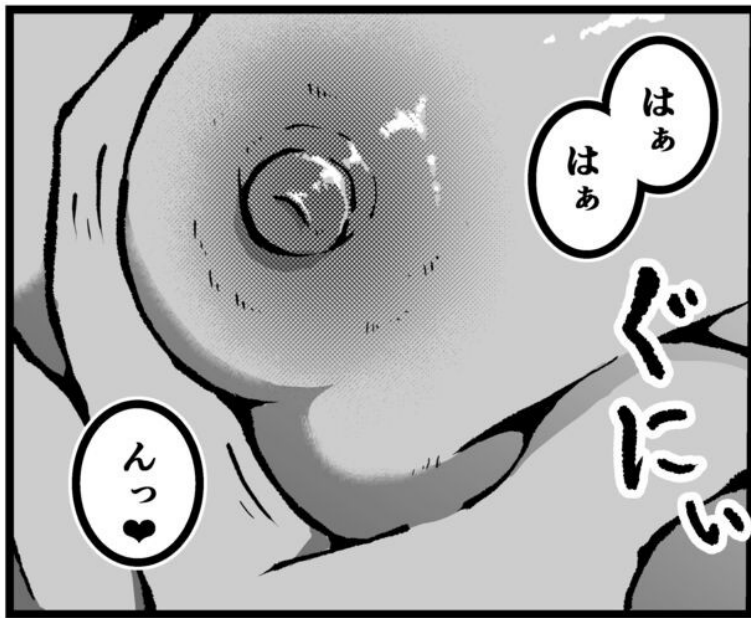
ください

そうしたら私は
生贄になることだって
怖くない…
だから抱いてください

俺も
愛している

君が望むなら俺は
なんでもする!!

こんなにリアンは恐怖し
追いつめられていたのか…
そしてそれほど俺を
愛してくれてたのか…





痛っ…

はあ

はあ

性行為って
こんなに痛い…



あぐう

うう

ズッ

ズッ

ズッ



痛い

痛い

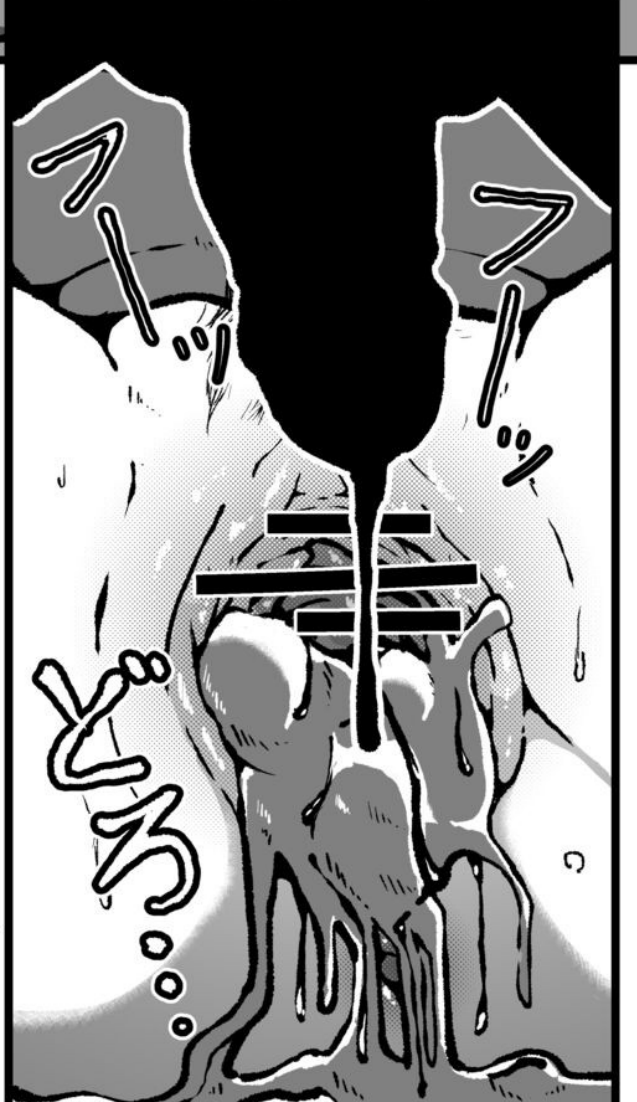
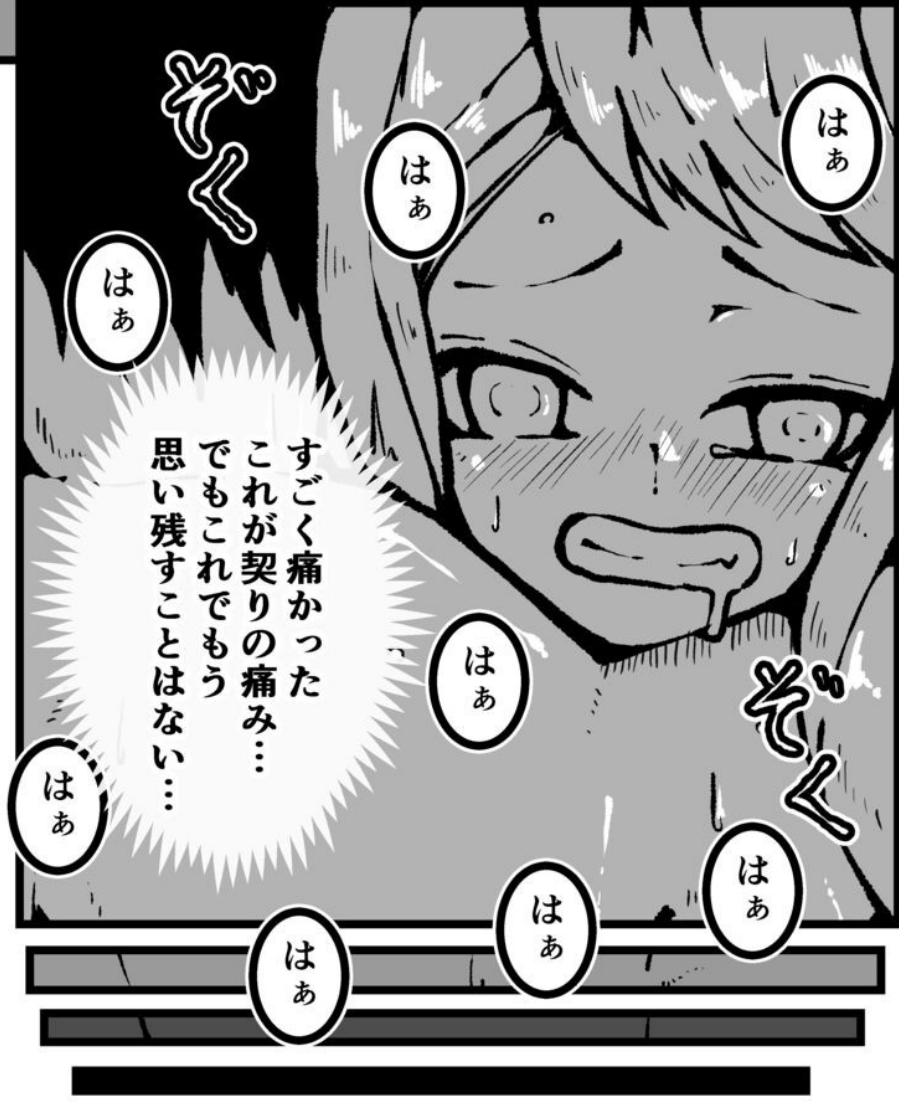
痛い


痛い




ブルッ

うぐっ






翌日：
彼女は土地神がいる
山へと向かった。
彼はそれに同行した。

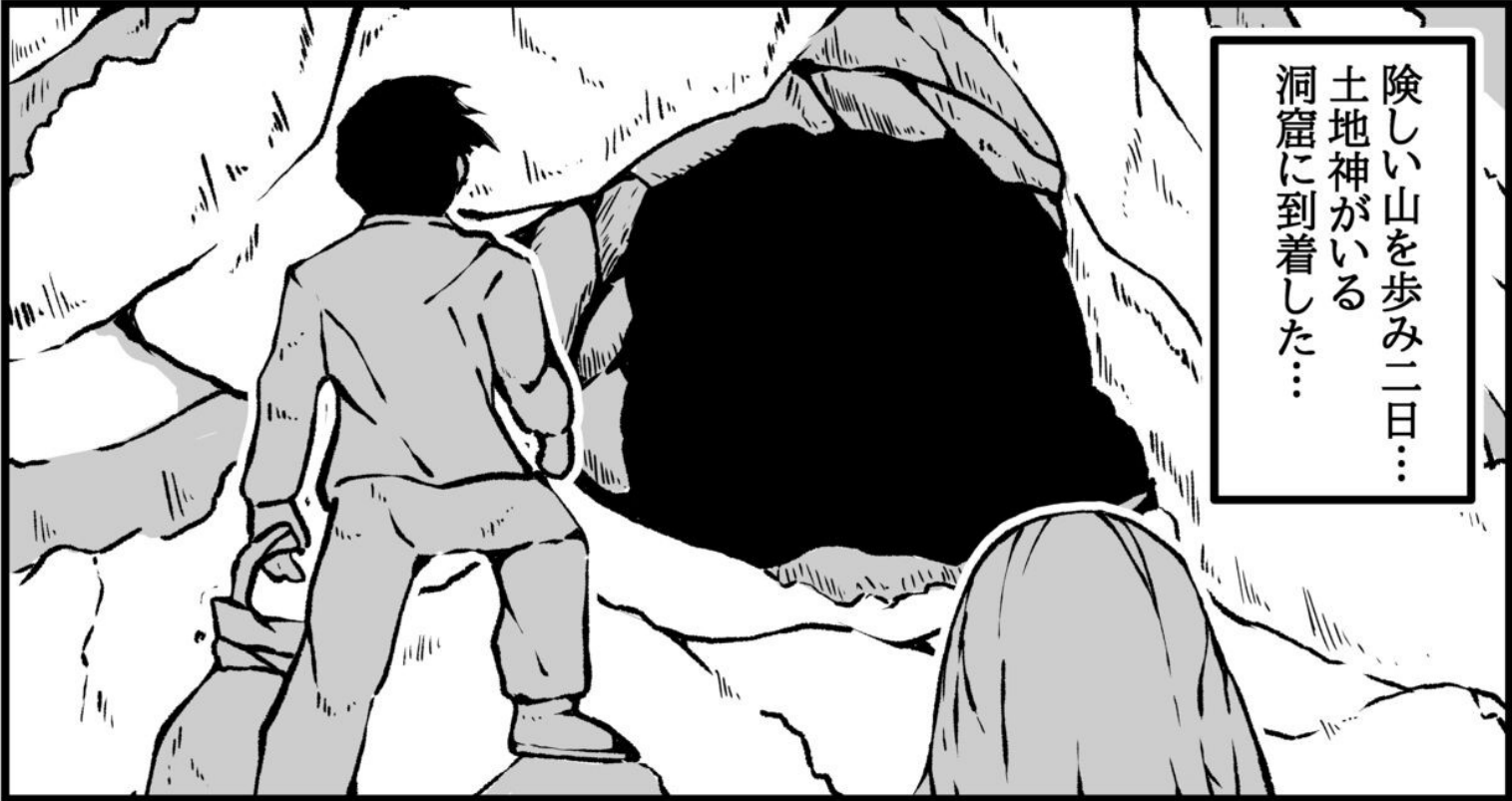


彼はその道中に
一緒に逃げようと
提案したが…



しかし彼女は
思い残すこと
はない。

それに村が
好きだから
幸せになつて
ほしいと
拒否をした。



険しい山を歩み二日…
土地神がいる
洞窟に到着した…



よく来たな
非力な人の子よ

村周辺の天候を
改善させよう
そして肥沃な
大地を与えよう

皆まで言うな
すべて見ておった

しかし生贄に
その女は喰らう

と言いたい
ところだが
少し遊びを
しよう…

土地神

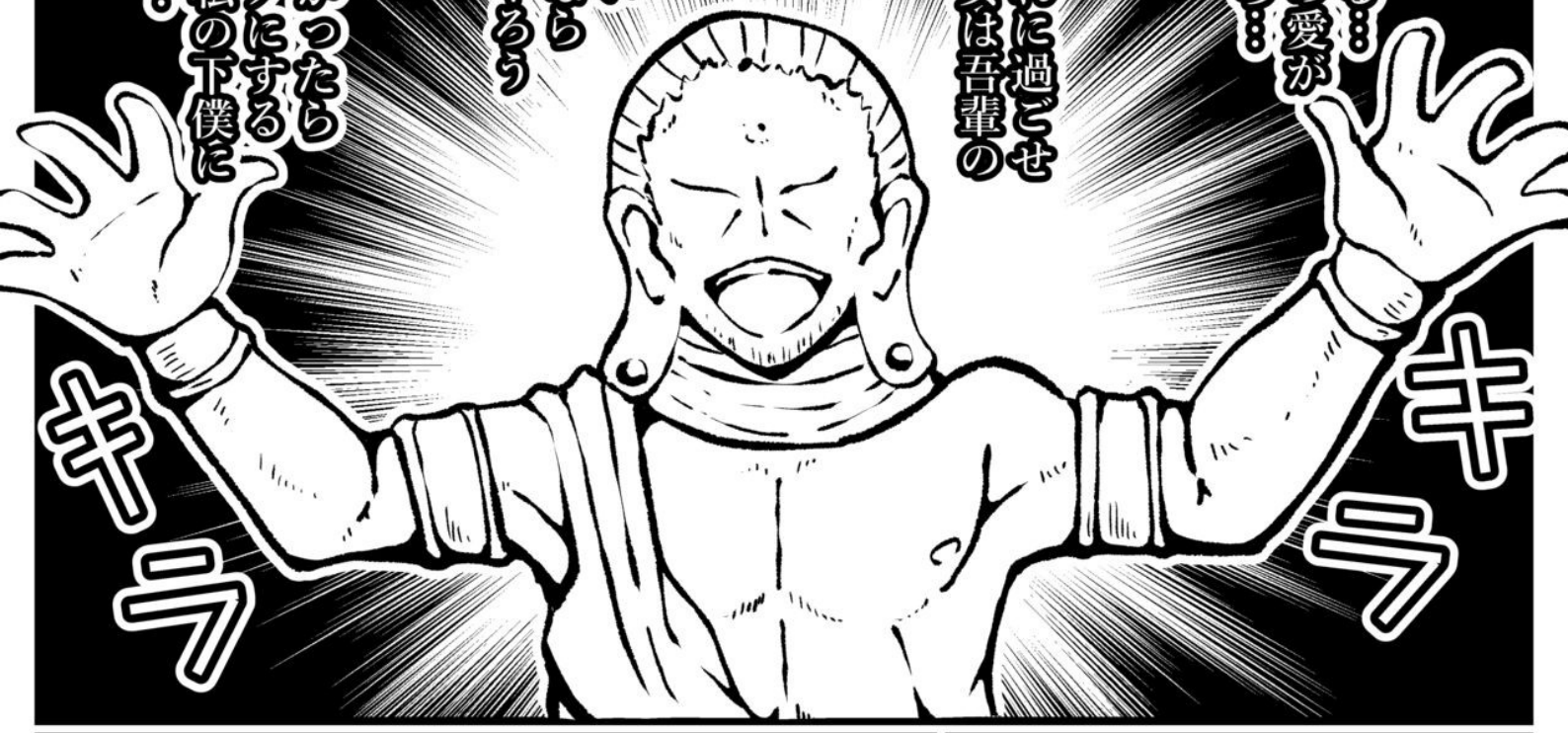
ルースニカタユ

お前たちが
愛し合ってる
事は知ってる!!
だからお互いの愛が
真実か証明しろ!!

なにに簡単だ
三年間!!
三年間離れ離れに過ごせ
お前は村で彼女は吾輩の
所だな

それで
お互いの愛が
揺らいでいない
証明が出来たら
彼女を返してやる

証明が出来なかつたら
彼女は私のモノにする
そしてお前も私の下僕に
なってもらおう!!



お願いします!!

こうして神の遊びにより
二人の男女の愛が試される
三年間の試練の日々が
始まったのだった...



君たちの愛を
知ってる吾輩だから
言える神の慈悲だよ
どうだ我慢できるか?

彼は村に戻り
彼女が帰って
くるまで
村を守るため
に働いた。

彼女は
炊事洗濯などの
神の身の回りの
世話をして
過ごした。

神はその姿を
しばらく眺め
楽しんでいた。

だがそろそろ
動くときかな

どうだ生活には
慣れたかな？

しかし
こんな甘い環境では
試練にならないだろう

そこで
私とまぐわって
もらう

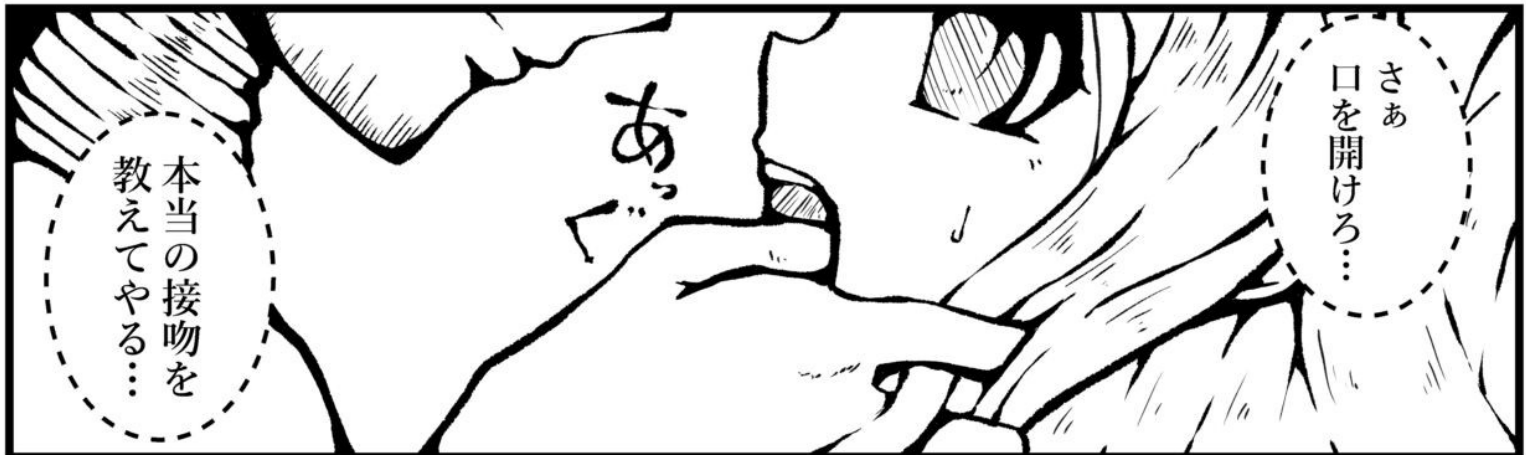
!?



いきなり
そんな...
そんなことは
出来ません...

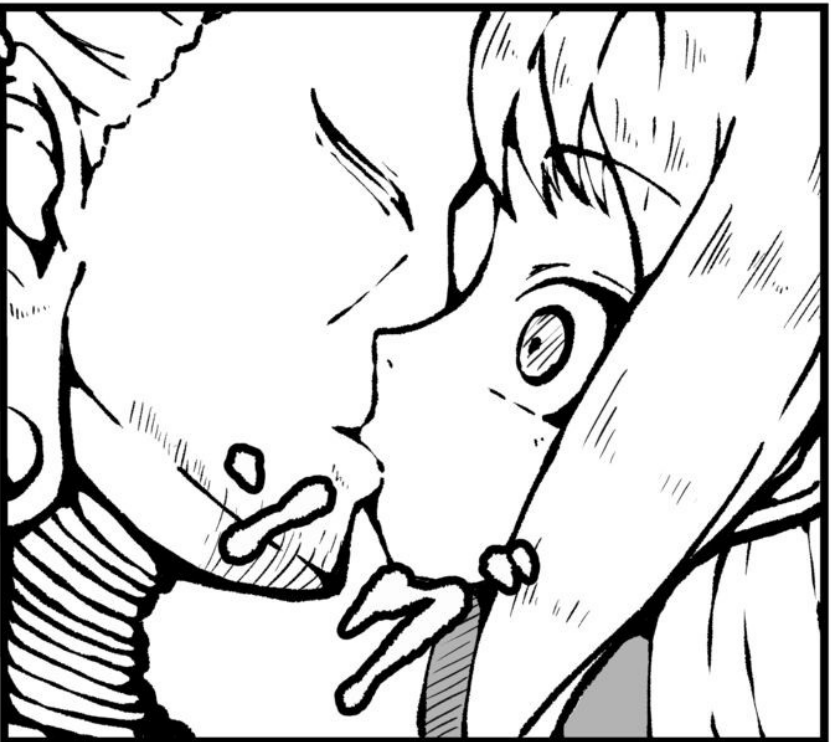
出来ない?
別に生娘でも
なからうに

それに君に
拒否することは
出来ないのも
わかっているだろう



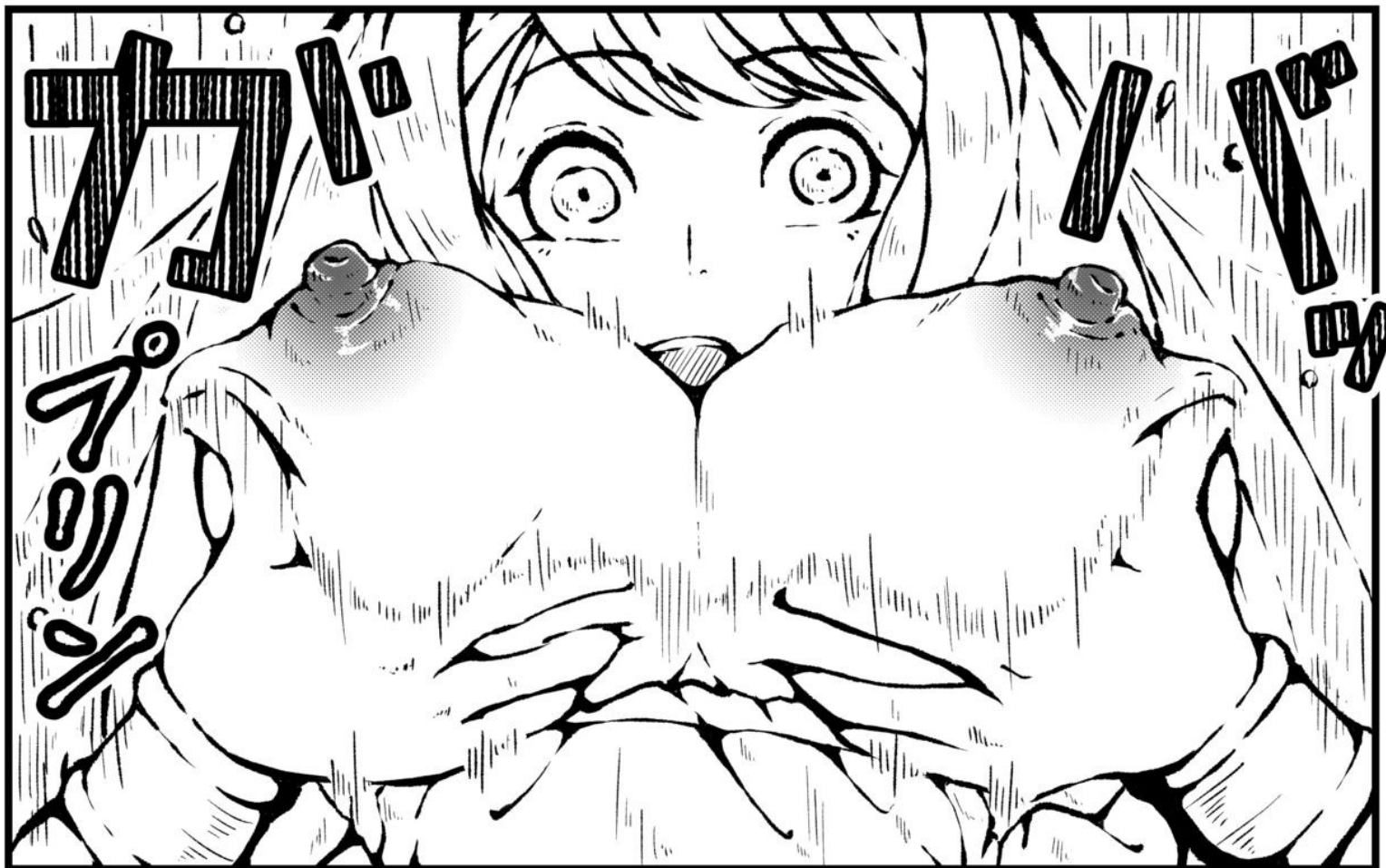
さあ
口を開けろ...

あ...
本当の接吻を
教えてやる...



口の中...

舌が



舌を入れる接吻は
初めてだったようだな
次は乳を気持ち
よくしてやろう

ちよっ
待って！

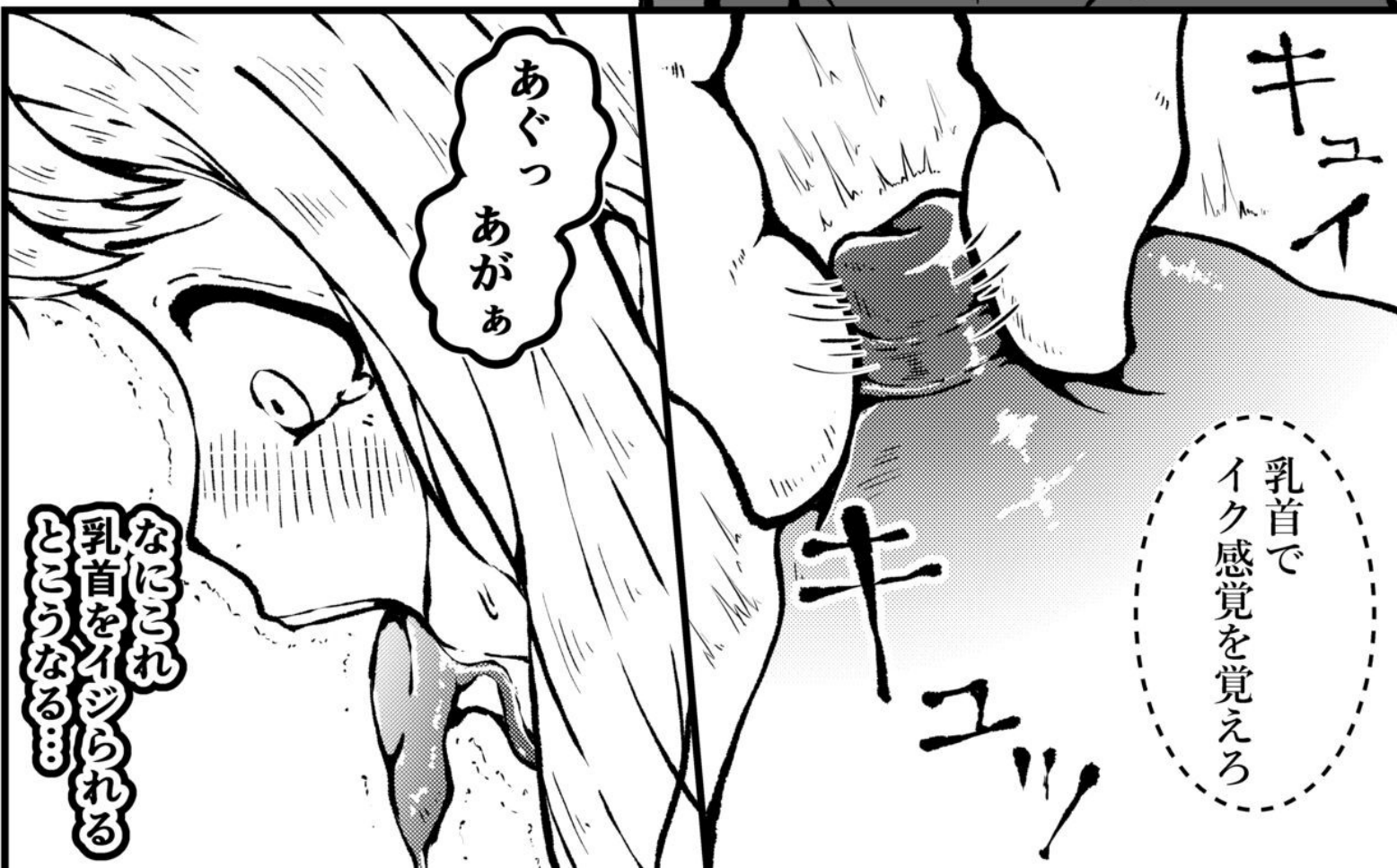
フニ

あん

んっ

どうだ乳首を
攻められたことは
ないだろう

あっ



キュイ

乳首で
イク感覚を覚えろ

キ
ユッ

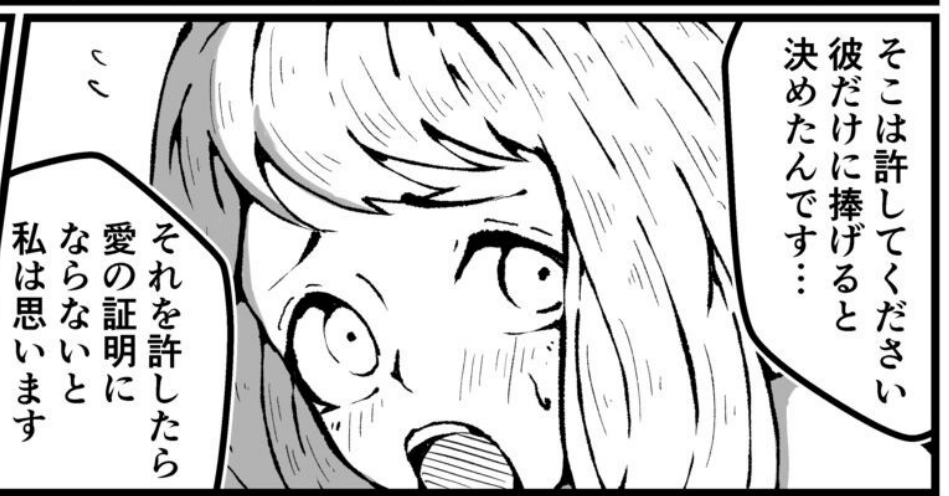
あぐっ

あがあ

なにこれ
乳首をイジられる
ところなる！！



乳首をイジっただけで
もうこちらの準備が
できてるじゃないか？
もう入れてもいいか？



そこは許してください
彼だけに捧げると
決めたんです…

それを許したら
愛の証明に
ならないと
私は思います

なるほど一理ある
ならば貴様が許すまで
見逃してやろう
なら…

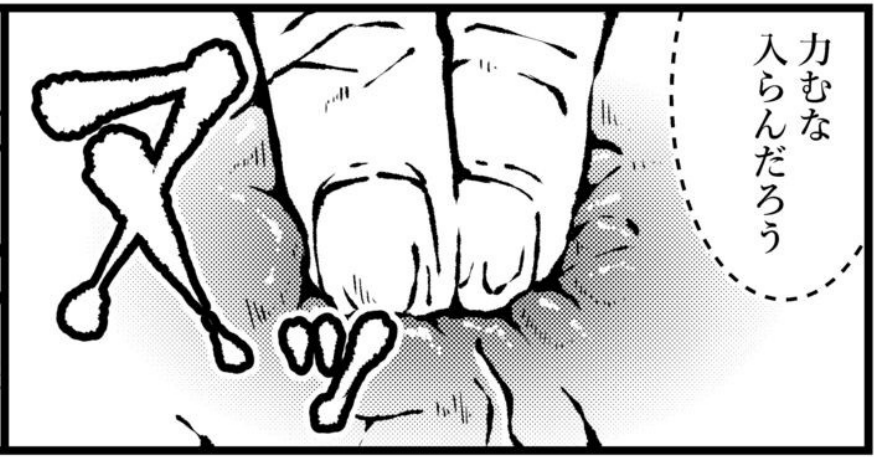


尻穴を掘り起こす
しかないな

安心しろ尻穴で
遊ぶ文化も
広がってきてる
素直に受け入れろ



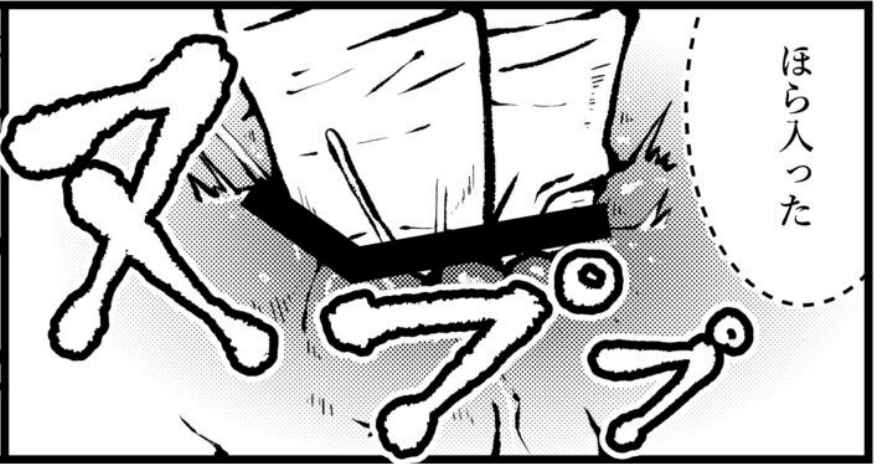
!!



力むな
入らんだろう



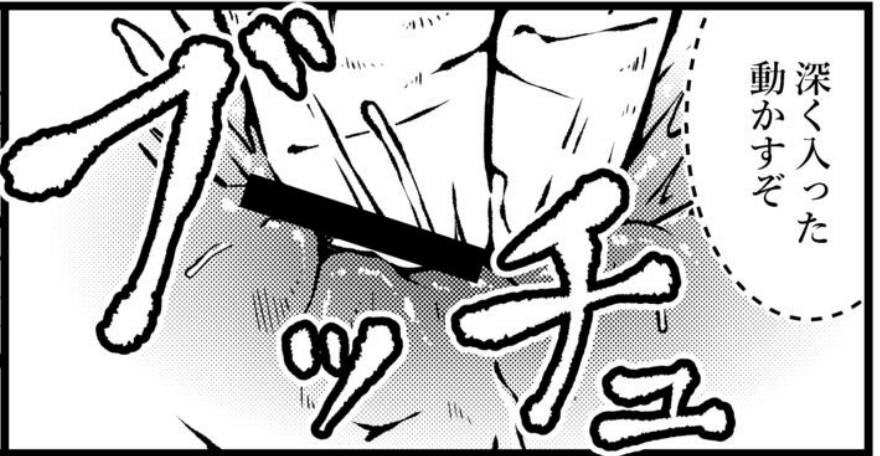
んんんんっ



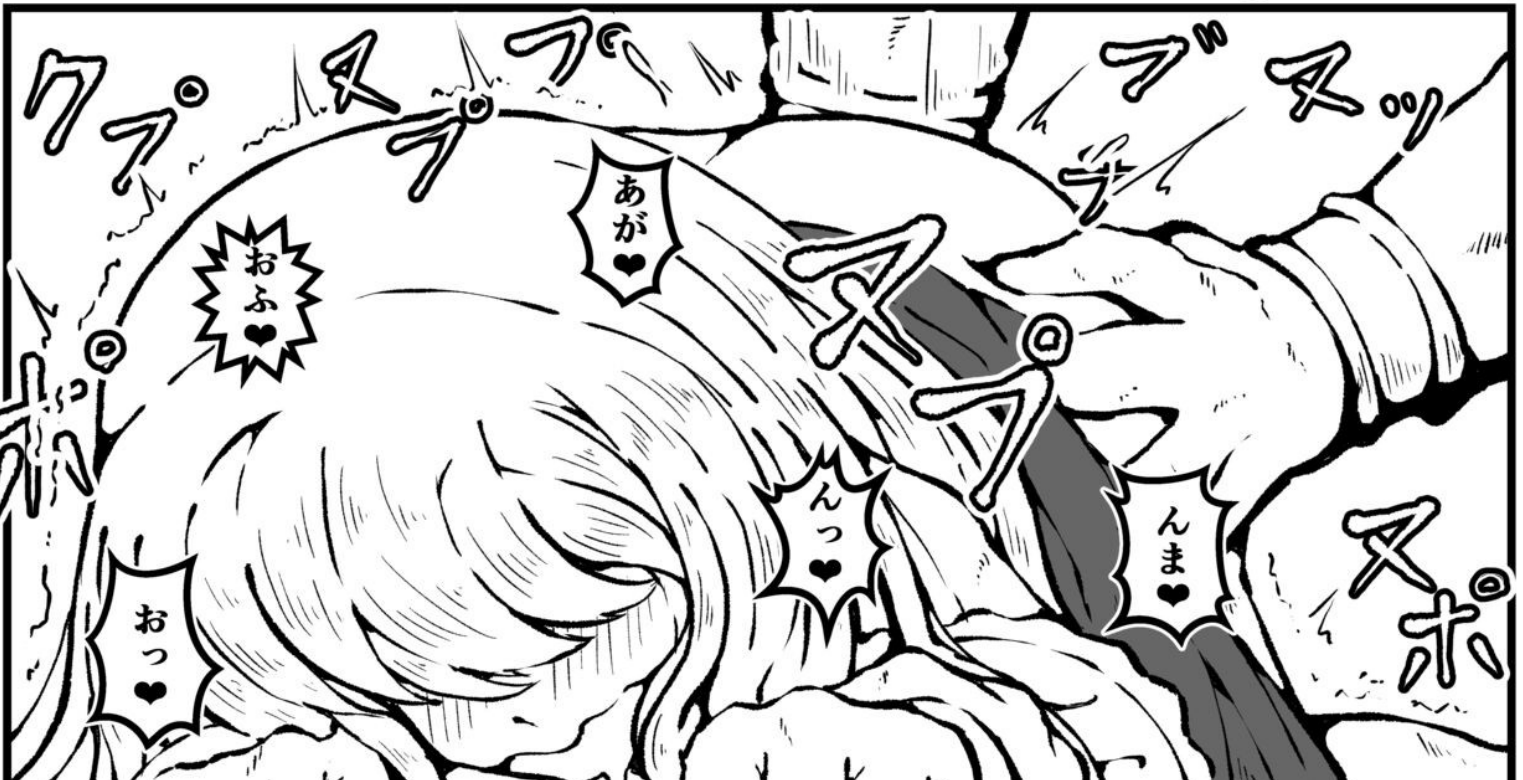
ほら入った



あっぐう



深く入った
動かすぞ



あが♡

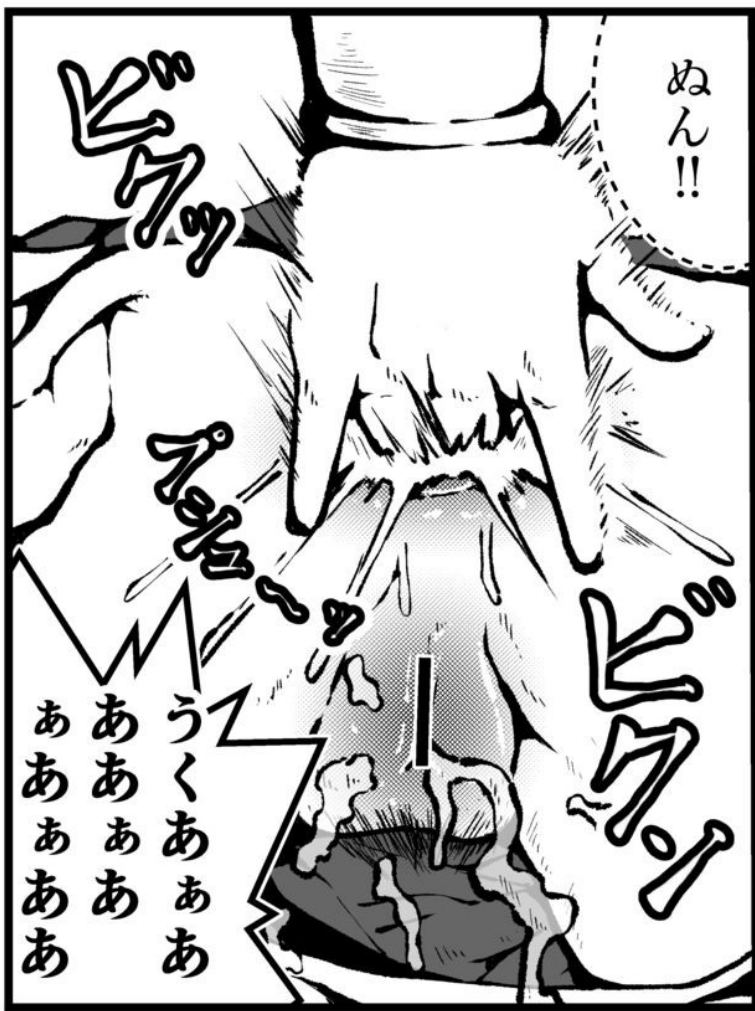
おふ♡

んっ♡

おっ♡

んま♡

アッポ



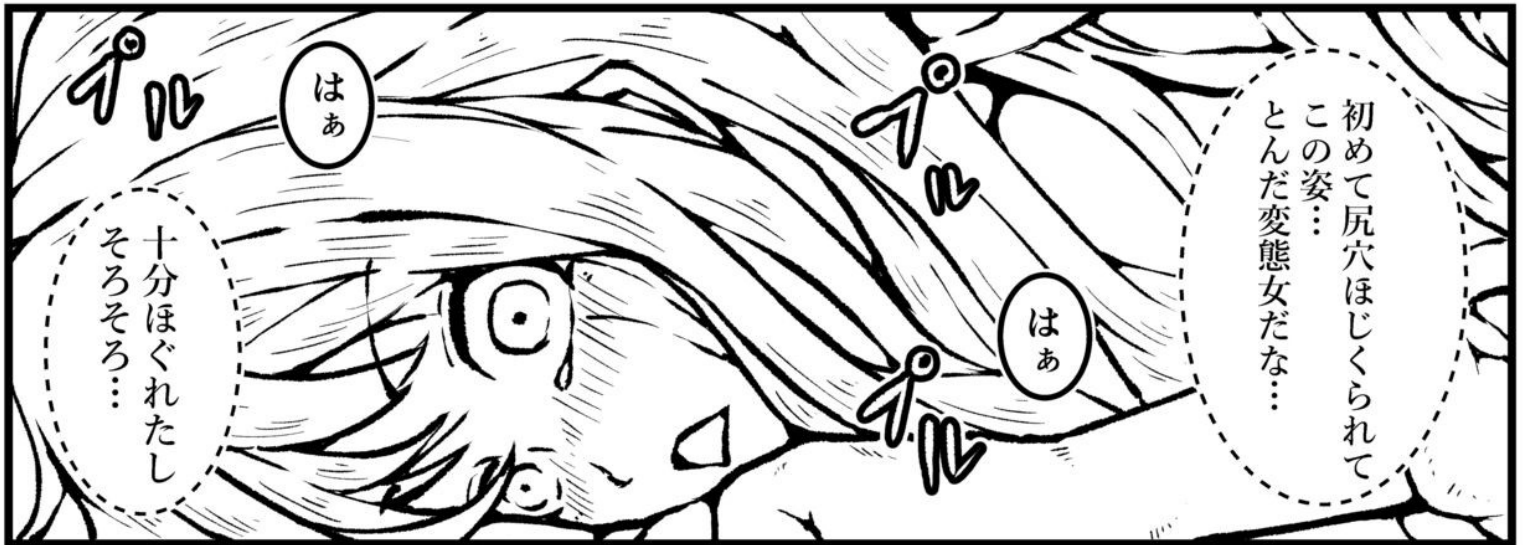
ぬん!!

うくあああ
ああああ
ああああ



そろそろ具合が
よくなって
きただろう

それじゃあ
イかせてやろう



はあ

はあ

初めて尻穴ほじくられて
この姿…
とんだ変態女だな…

十分ほぐれたし
そろそろ…



では入れるぞ
覚悟しろ…



吾輩の方も
楽しませて
もらおう



太っ



おかしい：
彼のアレはこんな：

太くて大きく
なかった：

覚悟はできたか？
それでは動くぞ



ブル
ブル

ブッ
ホッ
ブッ

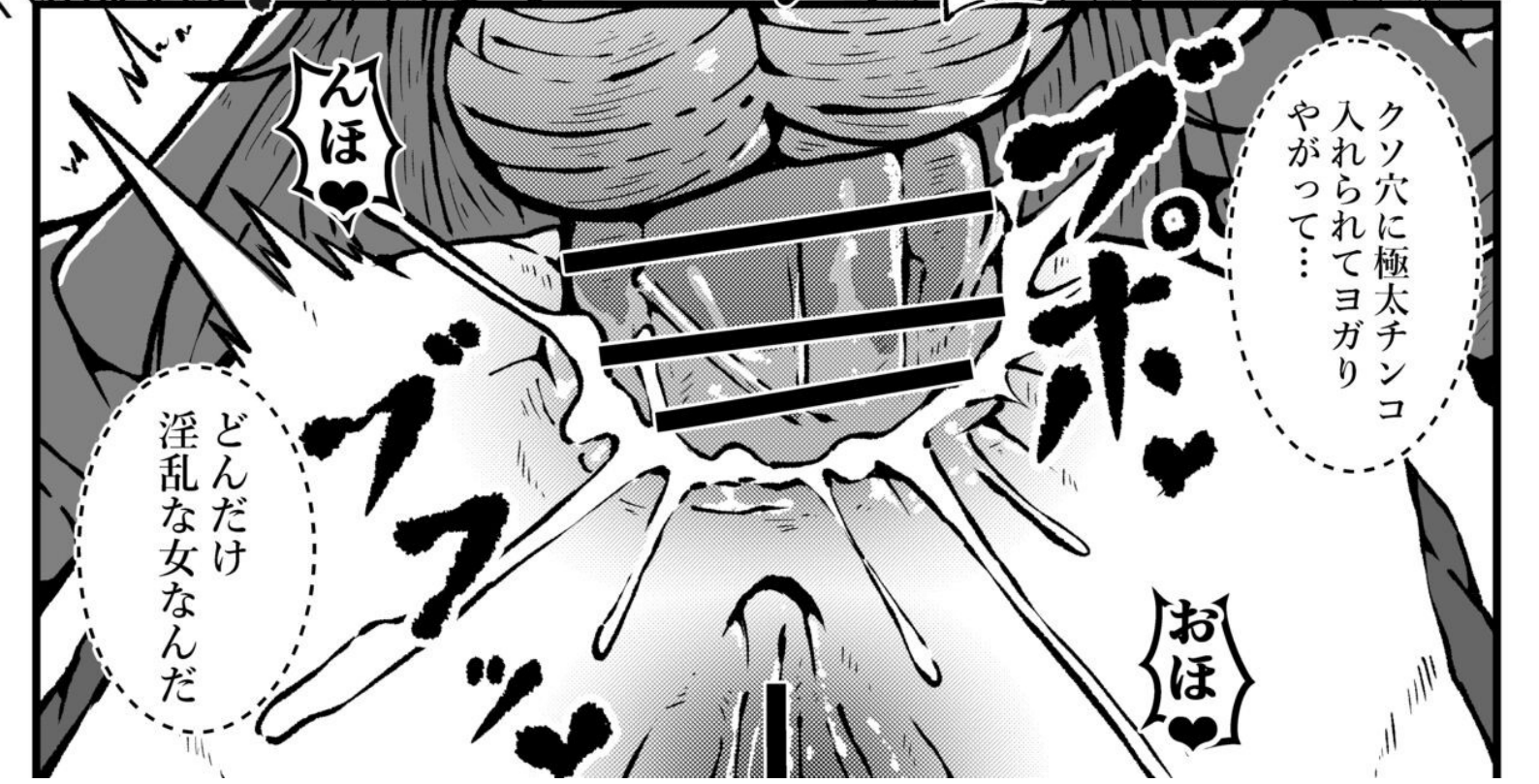
んぐ

んぎ

んっ

フサ

フサ



クソ穴に極太チンコ
入れられてヨガリ
やがって...

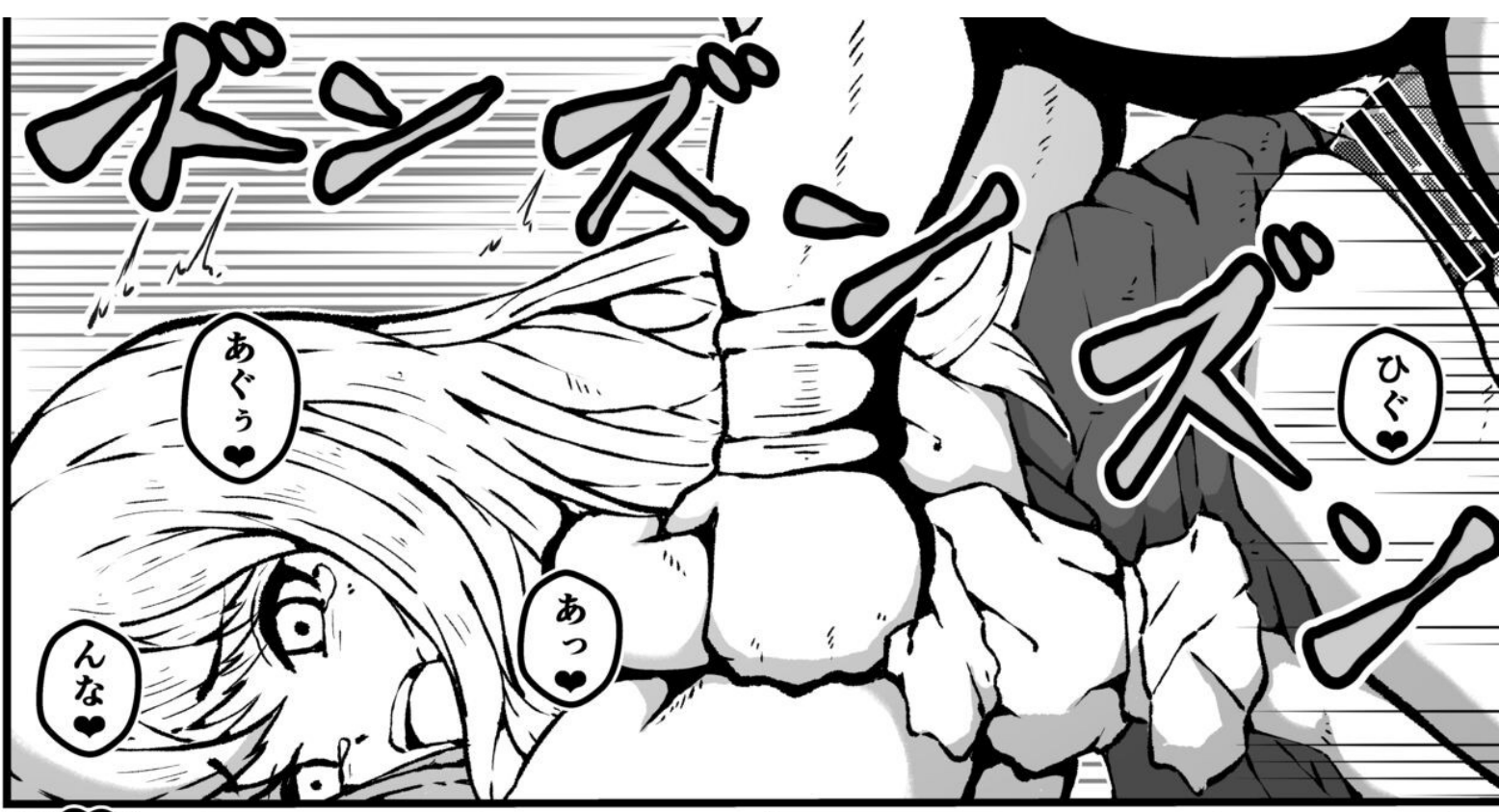
おほ

んほ

どんだけ
淫乱な女なんだ

ブッ
ブッ

んっ





クソ穴にしてはいい具合で
あった
面白い女が手に入って
吾輩は満足しておる

おほ♡

ゴポ

ゴポ

ほお♡

これから私が
十分教育してやる
毎日楽しみにするが
よい…

ゴポ
ゴポ
ゴポ

しばらくして
村も順調に回復し、
彼は彼女を信じて
働いた。

リアン
がんばって
耐えてくれよ

そして彼女は今日も
神に調教されていた
のだった。

吾輩好みの
衣装にしたし
フェラチオを
教えてやるぞ

大きく大きい
こんなモノがお尻の中に
入ってたの！！

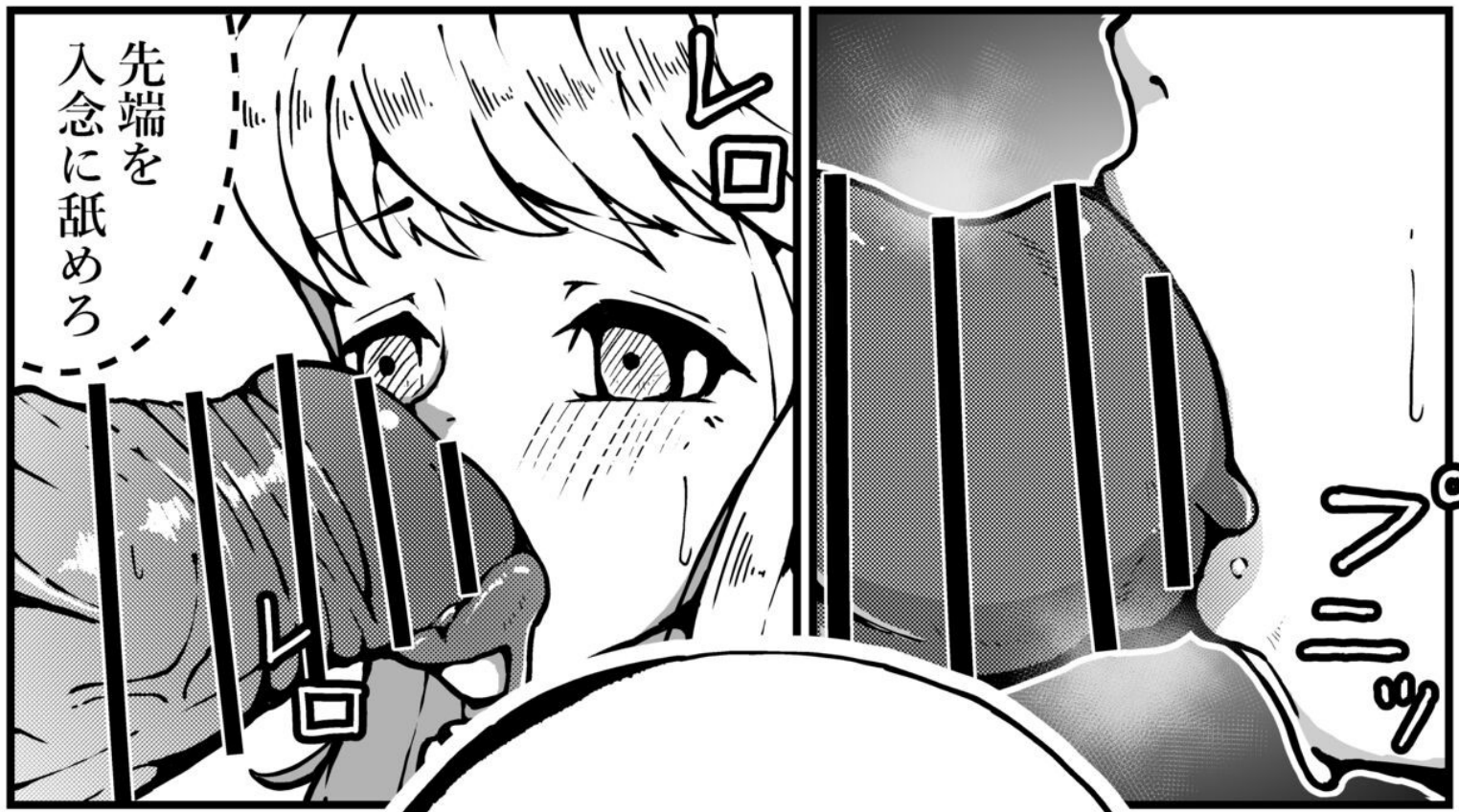
はあ

はあ

口を開け

舌を出せ…

さあ
受け入れろ

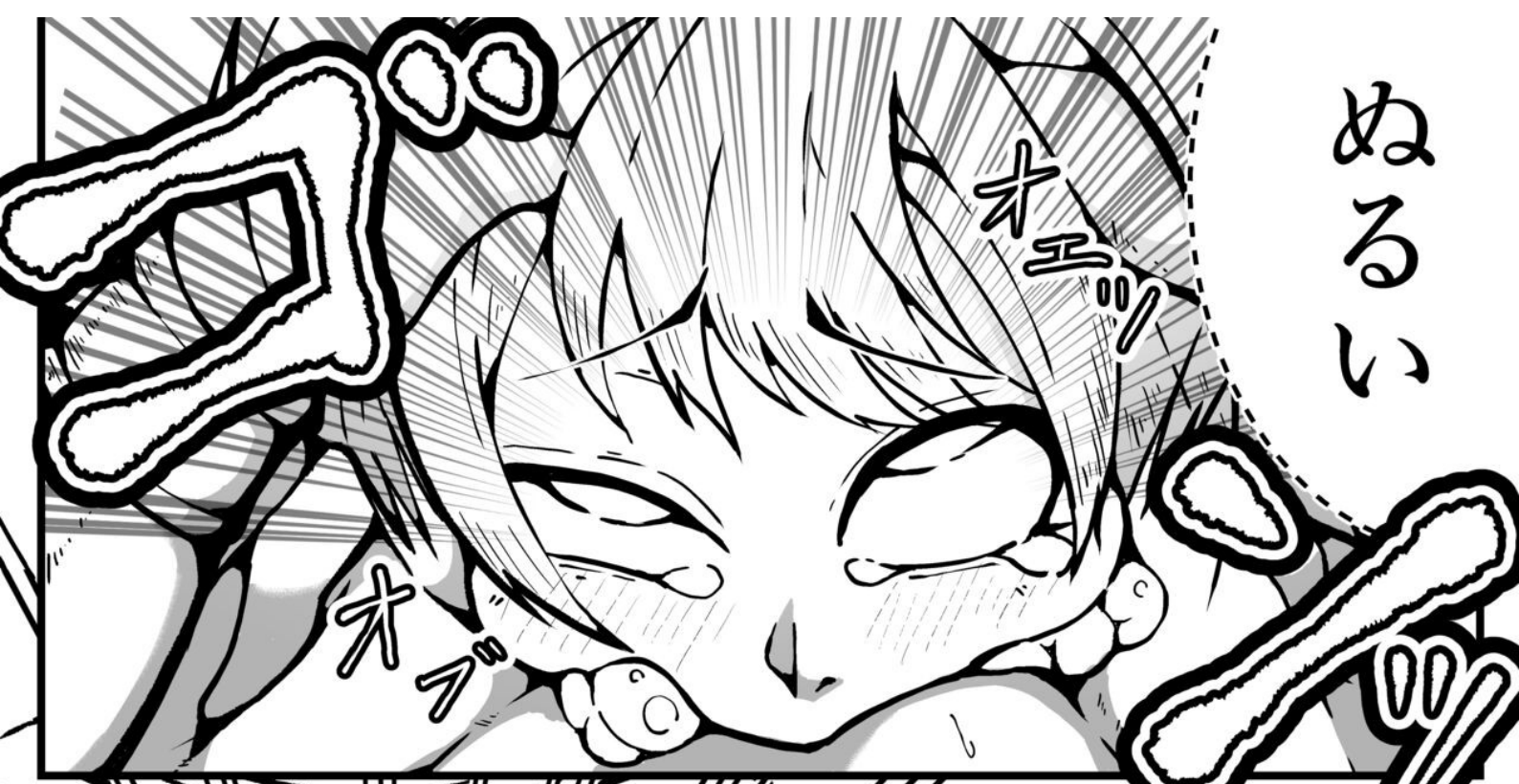


先端を
入念に舐める

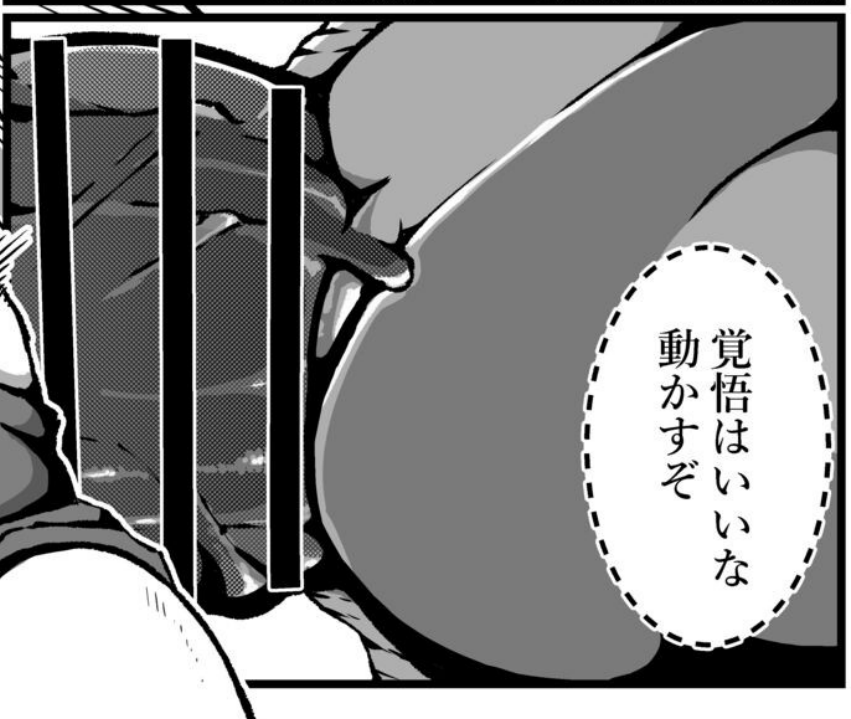
舐めつつ
頭を動かすのだぞ

そうだ
良い感じだ
だが：

ぬるい



男を満足させる
なら激しいことも
受け入れられる
ようにならんとな



覚悟はいいな
動かすぞ



苦しい
吐きそう...



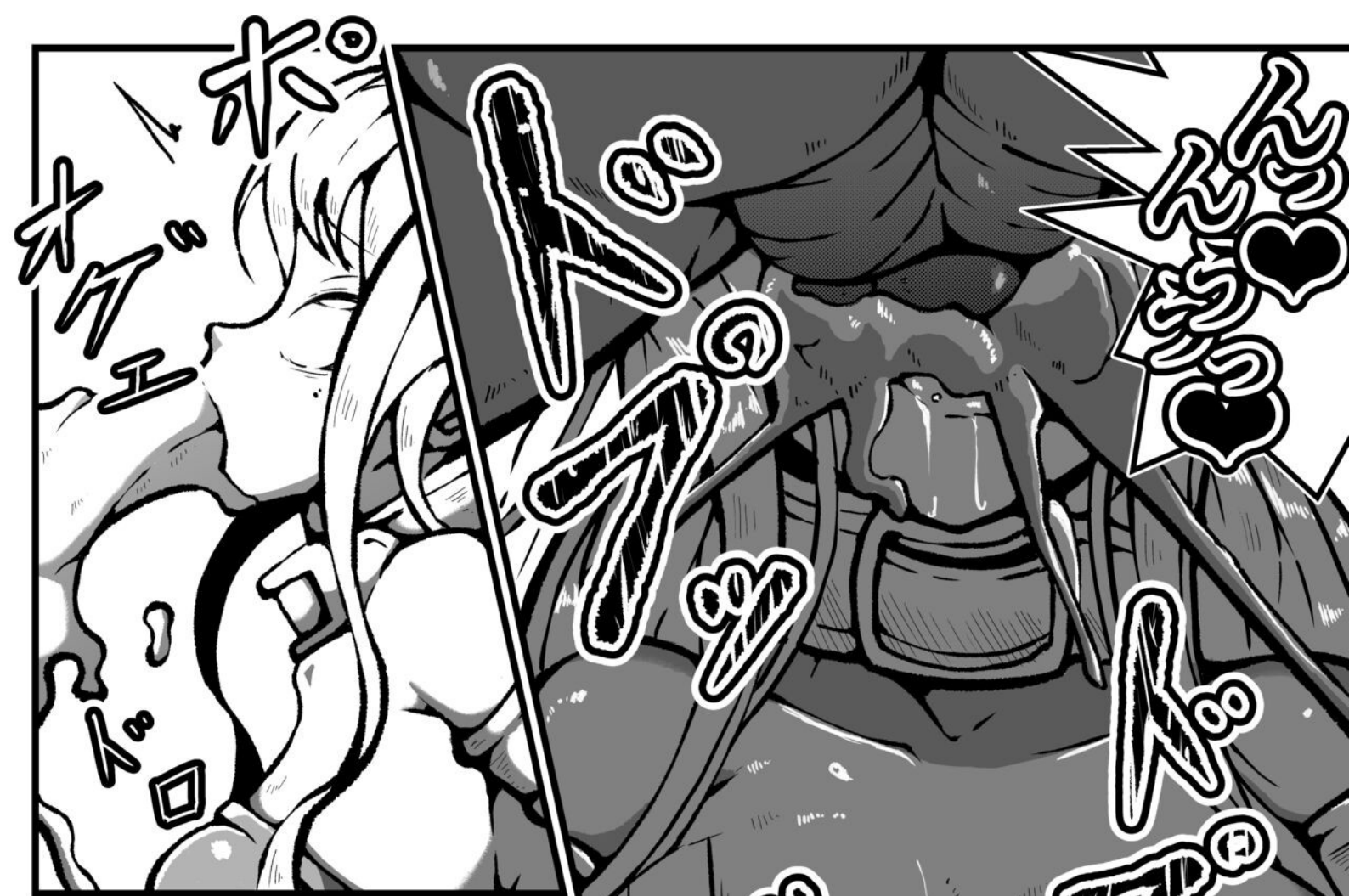
喉の奥にぶつかって
良い感じだぞ



そろそろ出すぞ



息できない
意識がと...

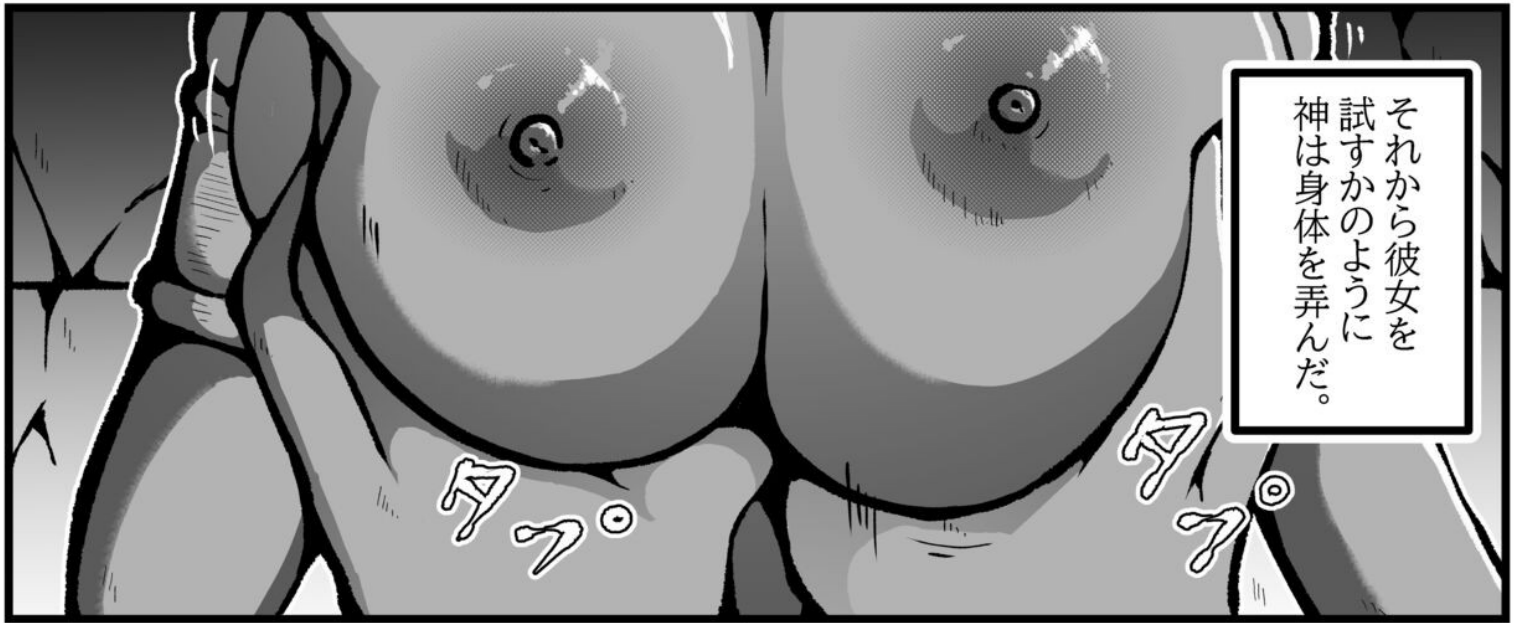


よかったぞ
次は何を教えて
やるかな：
楽しみにしろよ

おほ♡

おほ♡





それから彼女を試すかのように神は身体を弄んだ。

ダッ

ダッ



そしてつづく尻穴を攻め続けた。

ズッ

ズッ



彼女の心が揺らぐように…。

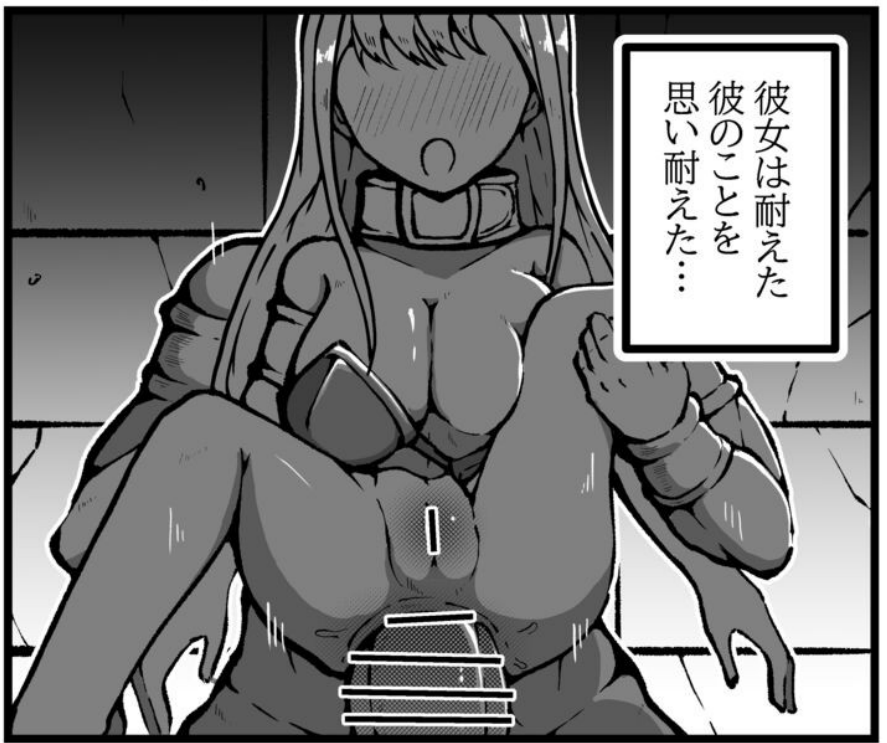
ズッ



だが彼女の身体は限界に到達した。

あひっ♡

あひっ♡



彼女は耐えた彼のことを思い耐えた…

ほう
これはこれは
面白いことに
なってるな…

理由を聞こうか？

はあ

はあ

こ…これ…
これは彼への愛を
確かめるために
必要なことでええ

はあ

ほしいとかじゃなくて
それが愛を証明する
フェアな行為だとも
思うわけでええ

はあ

はあ

はあ

はあ

ア

キヤ♡

つまり
あの時の発言は
撤回すると？

そして
受け入れても
愛がブレないと
証明すると
いうことか？

ならば…



試してやろう...



ぬん!

吾輩のチンコに
吸い付いてくる
具合のいい
マンコだな

あくう

あくう

ズ
ポ
ッ

ア
ア

ア
ア

太っ…
マンコの形が
変わっちゃう

あひい

ア
ア

ア
ア

あん♡

あん♡

あん♡

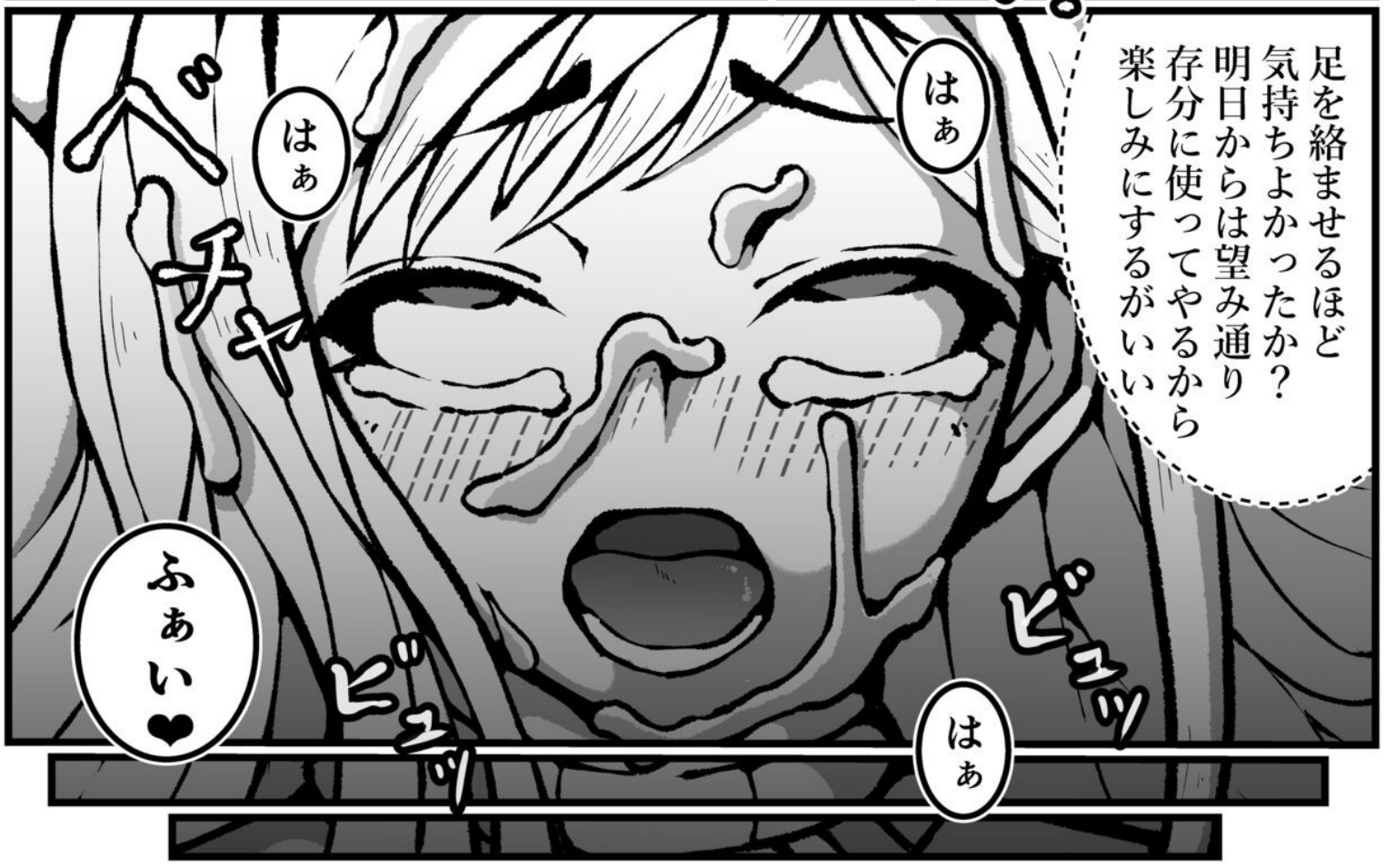
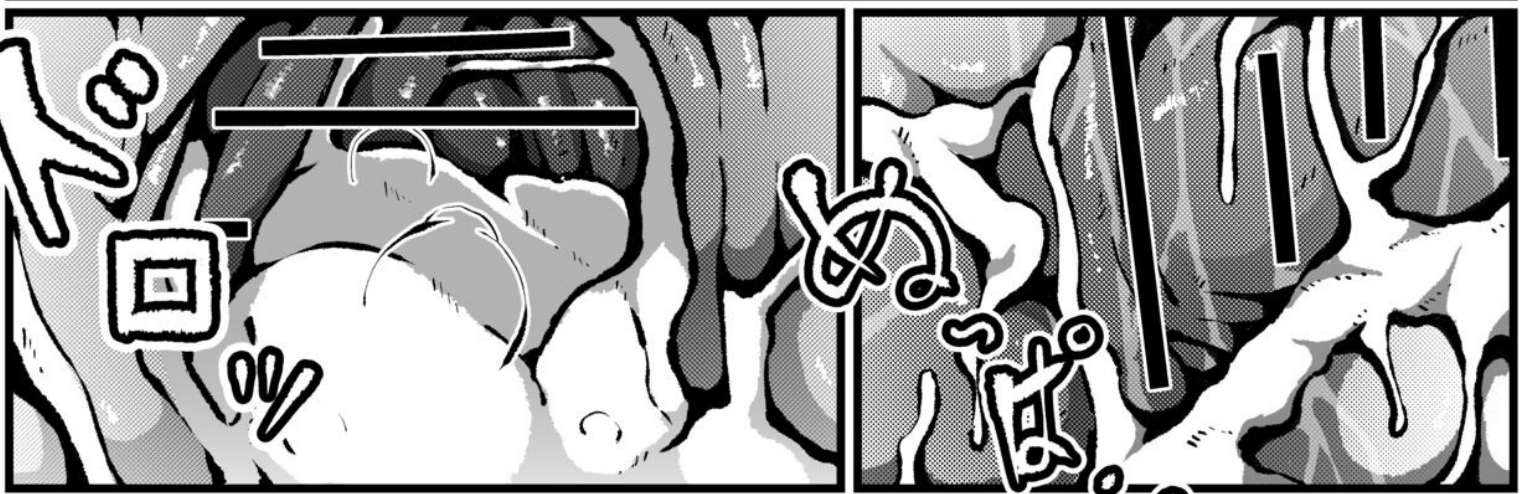
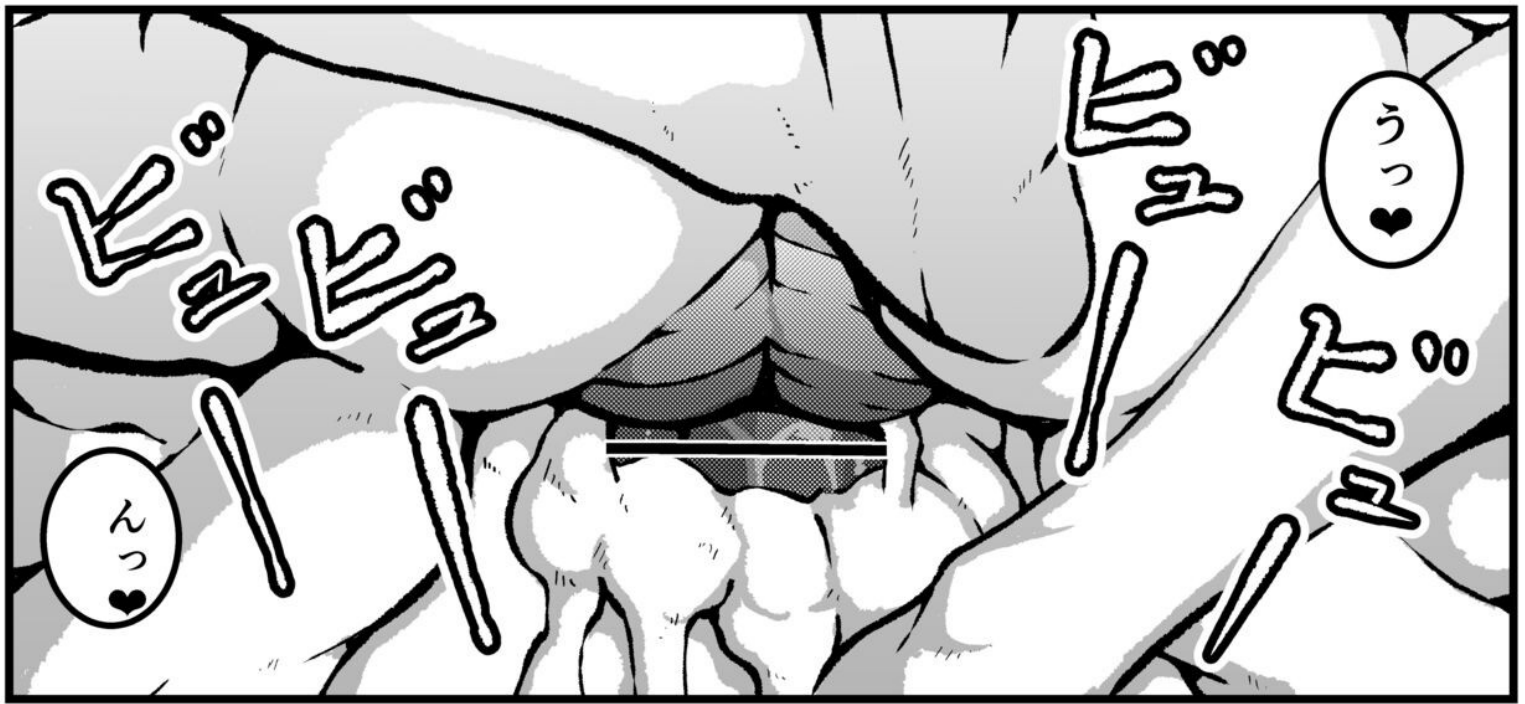
あん♡

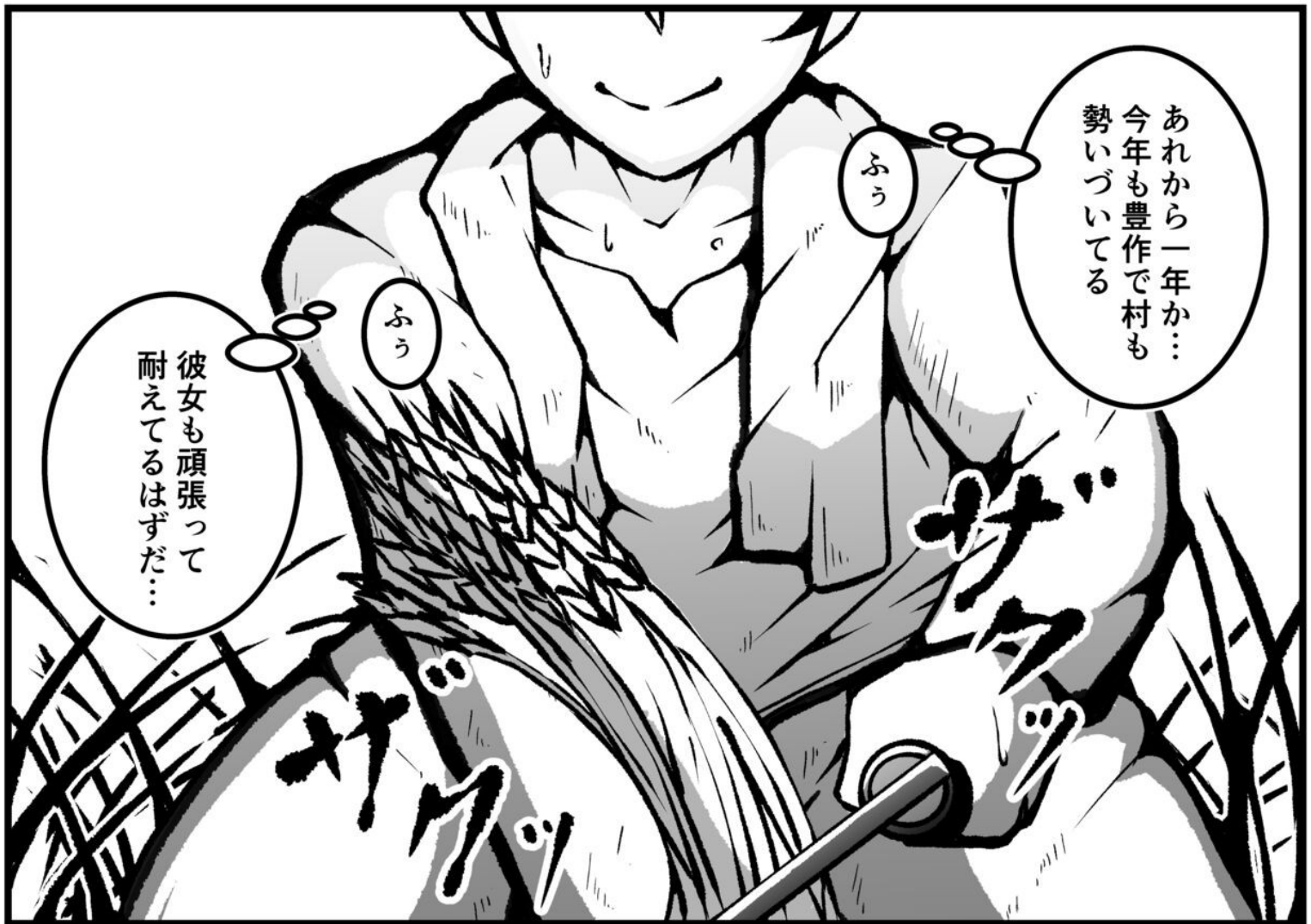
ズ
ポ

ゴ
ッ

ゴ
ッ

ゴ
ッ





あれから一年か：
今年も豊作で村も
勢いづいてる

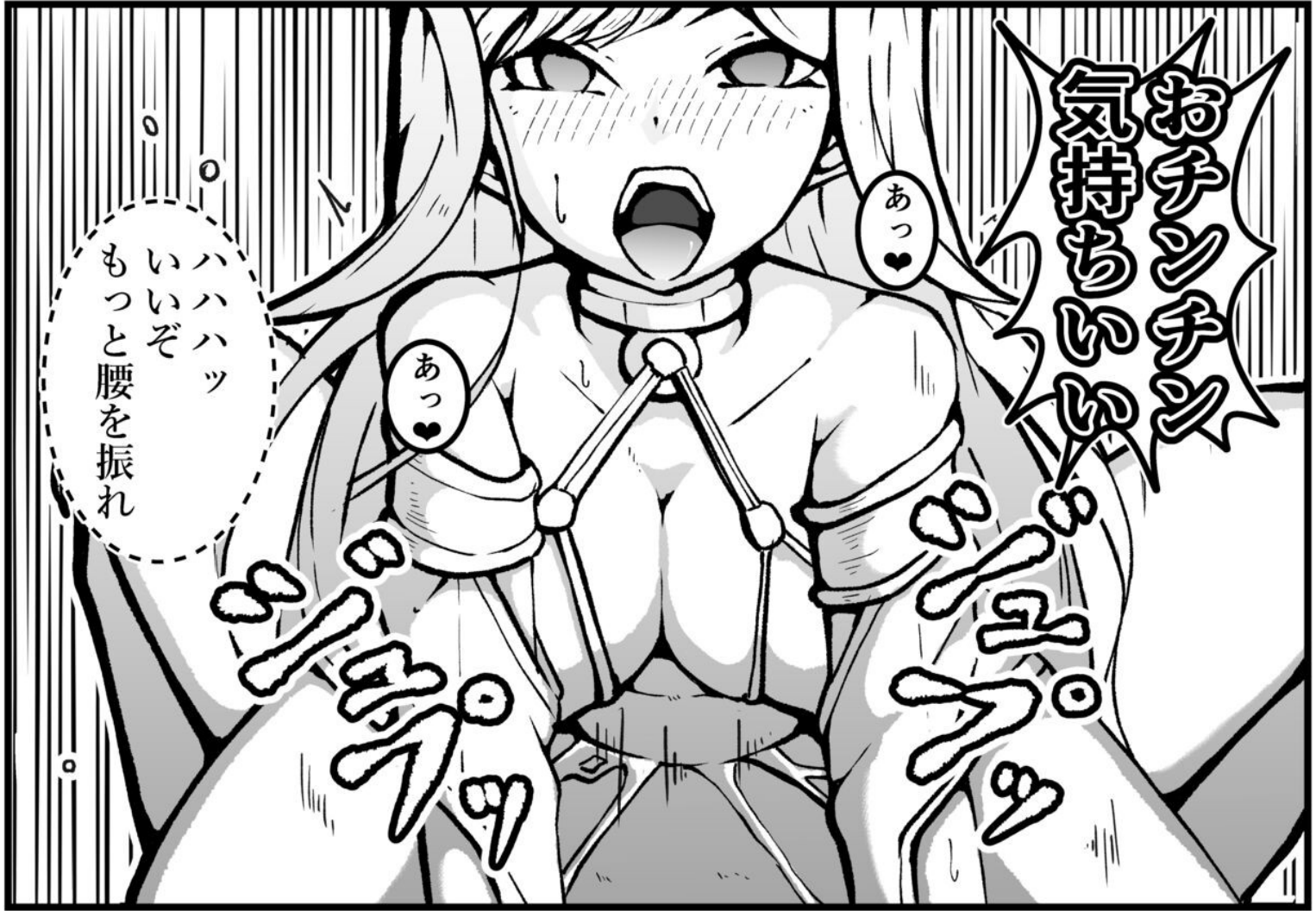
ふう

ふう

彼女も頑張って
耐えてるはずだ…

ザッ

ザッ



おチンチン
気持ちいい

あっ

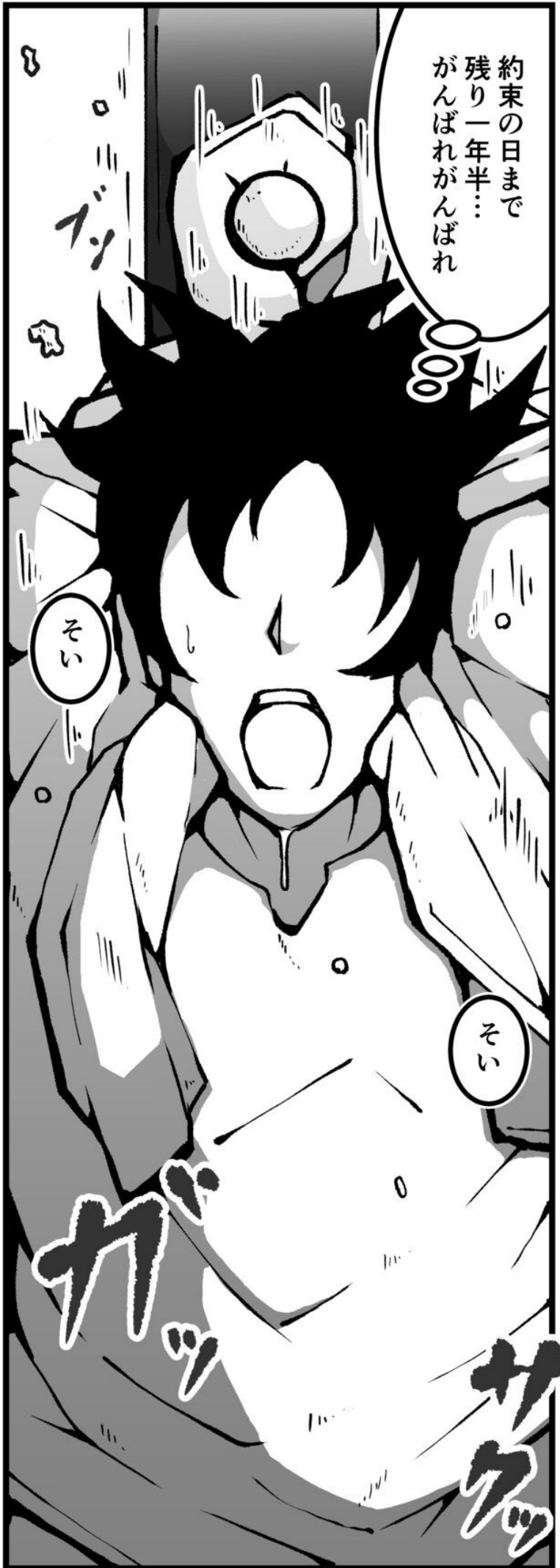
あっ

ハハハッ
いいぞ
もつと腰を振れ

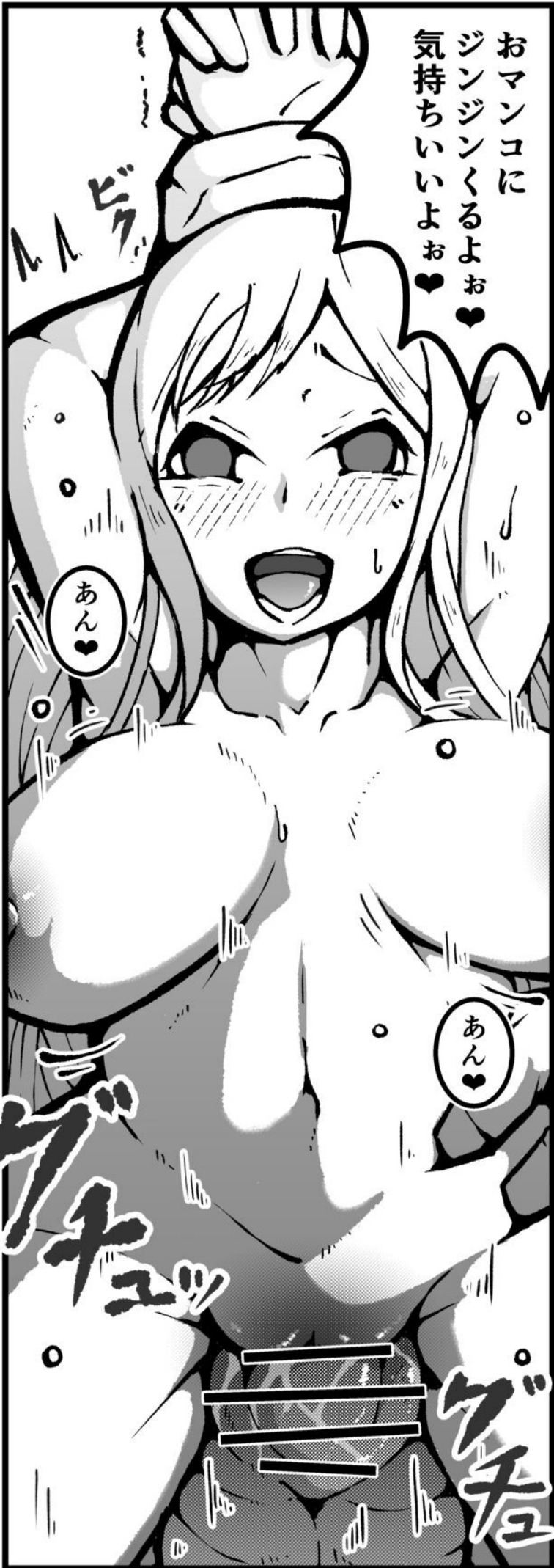
あっ

あっ

約束の日まで
残り一年半…
がんばれがんばれ



おマンコに
ジンジンくるよお
気持ちいいよお ♡



残り一年…
もうすぐ！
もうすぐだ！！

ふう

そうだ！！
下品な音を
出しながら
激しくしゃぶれ

そしてついに
三年の月日が
経過した。

神様!!
約束の日です
彼女を返して
ください

三年の月日を
耐えたんだ
それで充分じゃ

いや足りんな
足りんから…
証明してもらう

セックスでな

なっ!!

焦るな小僧…
返すのはお互いの
愛が証明された
時であろう

三年我慢したのだ
セックスもしたからう
それに吾輩はそれが
愛の証明だと思う

心だけでなく
身体も通じなければ
本当の愛
ではないかね？

準備はできてる
さあ：
セックスしろ!!

キラ
キラ
キラ
キラ
リアン!!

私も会いたかった
神様の言うとおりに
私を抱いてください

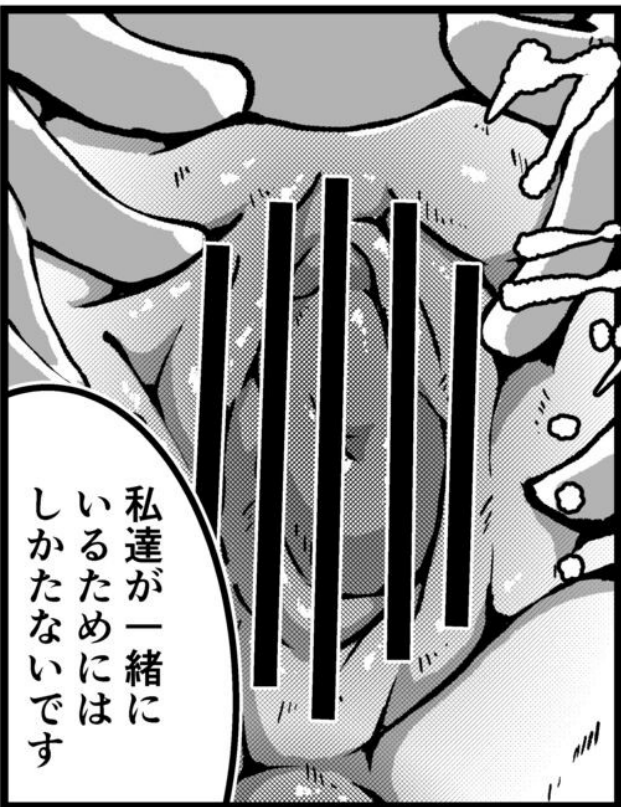
リアン
会いたかった…

こんなに
美しく
なったのか

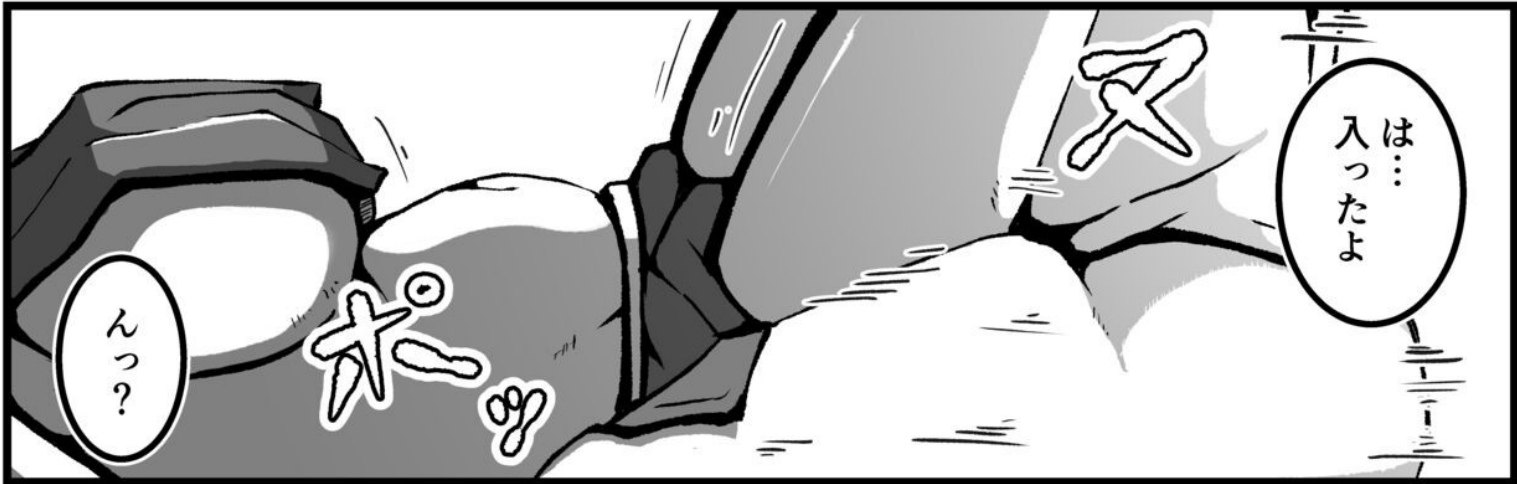


わかった：
それじゃあ
証明してみせる!!

そうです
やってください



私達と一緒に
いるためには
しかたないです



は：
入ったよ

ん??



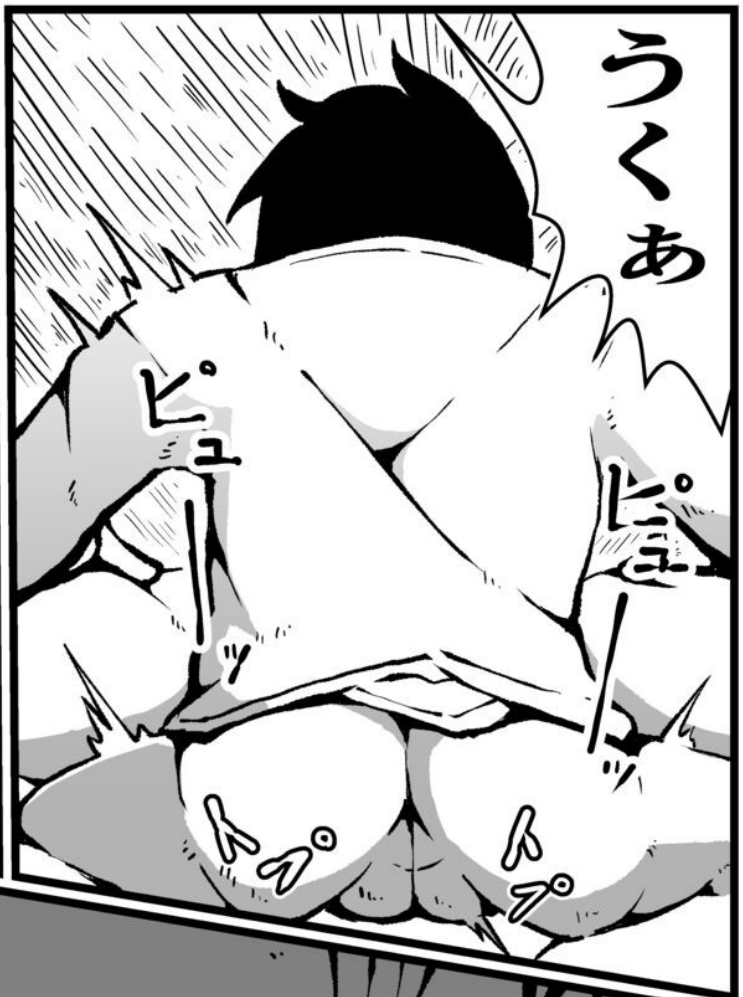
これが
愛なんだね

すごく
気持ちいいよ



どうです??

これで
愛の証明が
できた
でしょう?



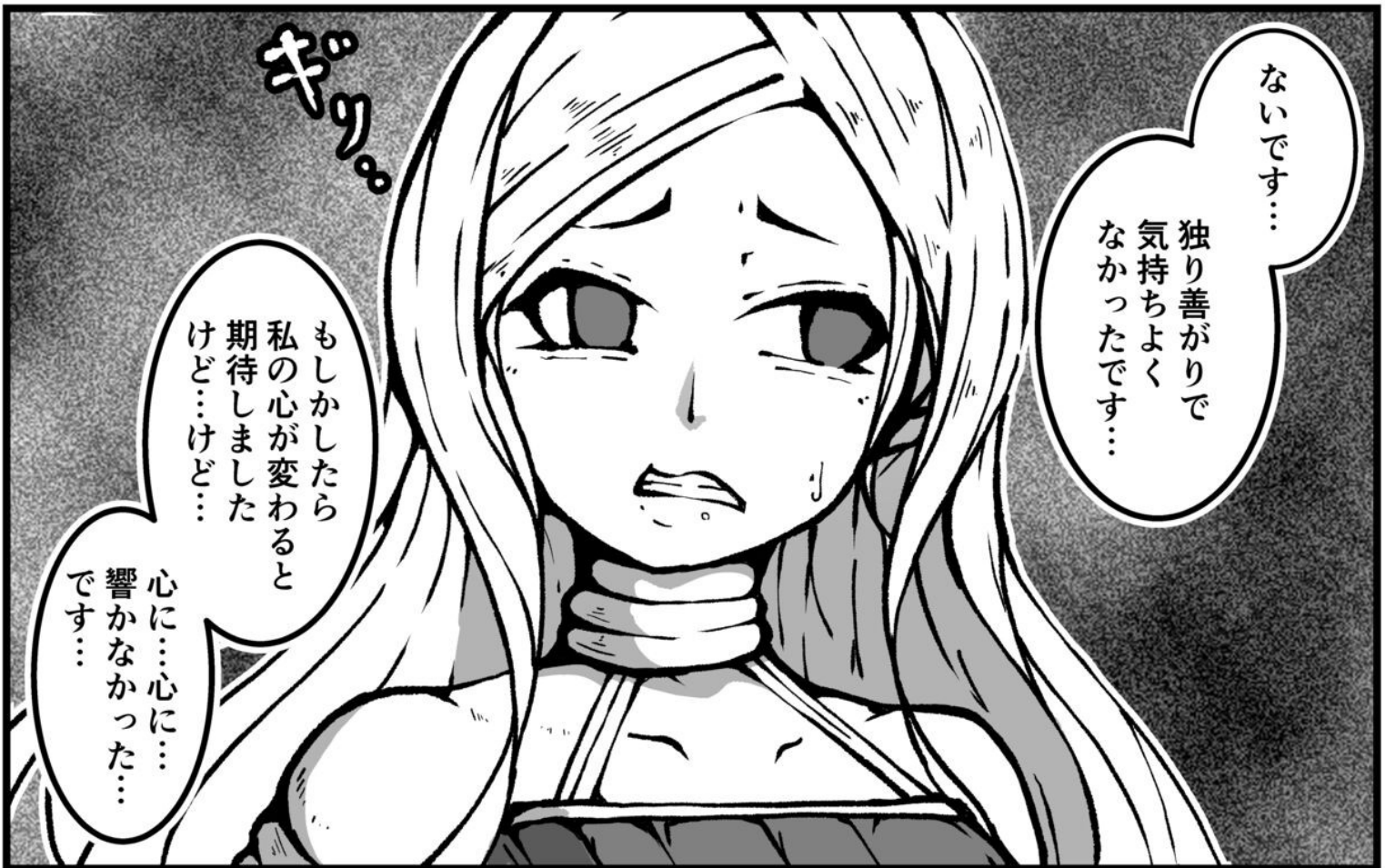
うくあ



そうなのう
なら答えたら
どうだ?



そ…
それは…



ないです…

独り善がり
で
気持ちよく
なかつたです…

もしかしたら
私の心が変わると
期待しました
けど…けど…

心に…心に…
響かなかつた…
です…

キッ

だそうだ：
三年間一途に
我慢したのに
女は勝手だねえ……

ガッ

だが賭けは
私の勝ちだ
約束は
守ってもらうぞ

さて
これで終わりと
言うのも
つまらんだらう？

ニヤッ

それに
満足してない
であらう？
なあ？

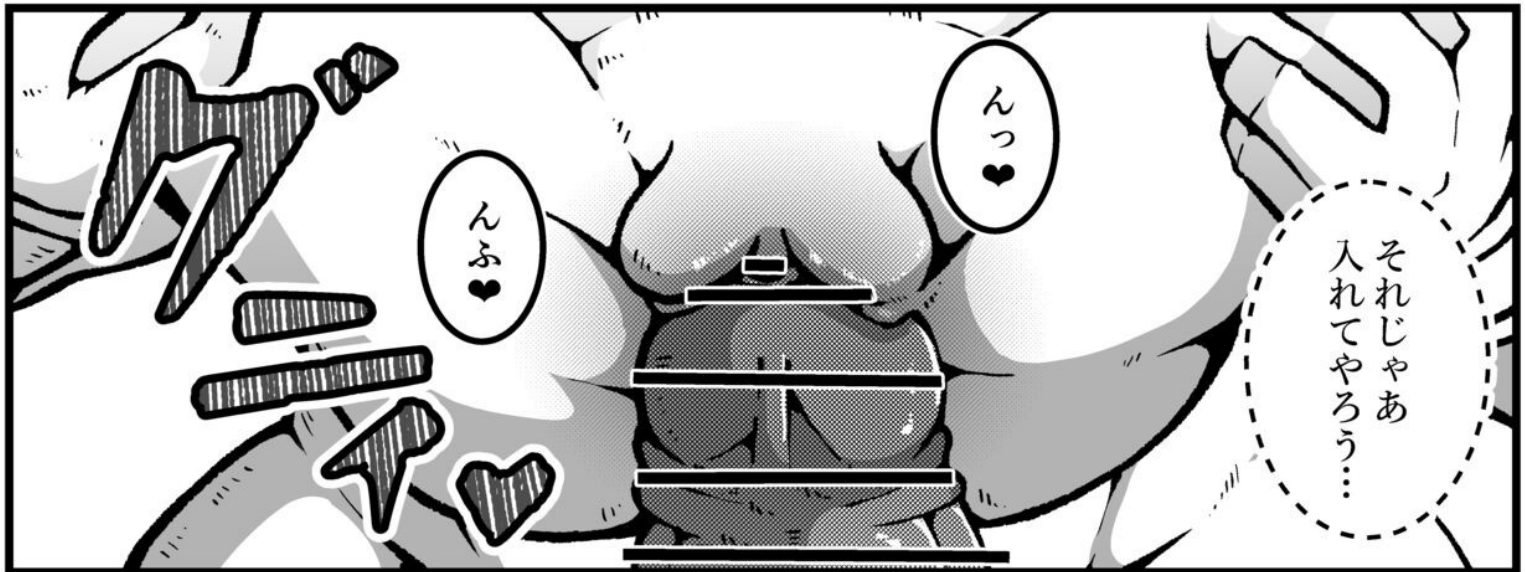
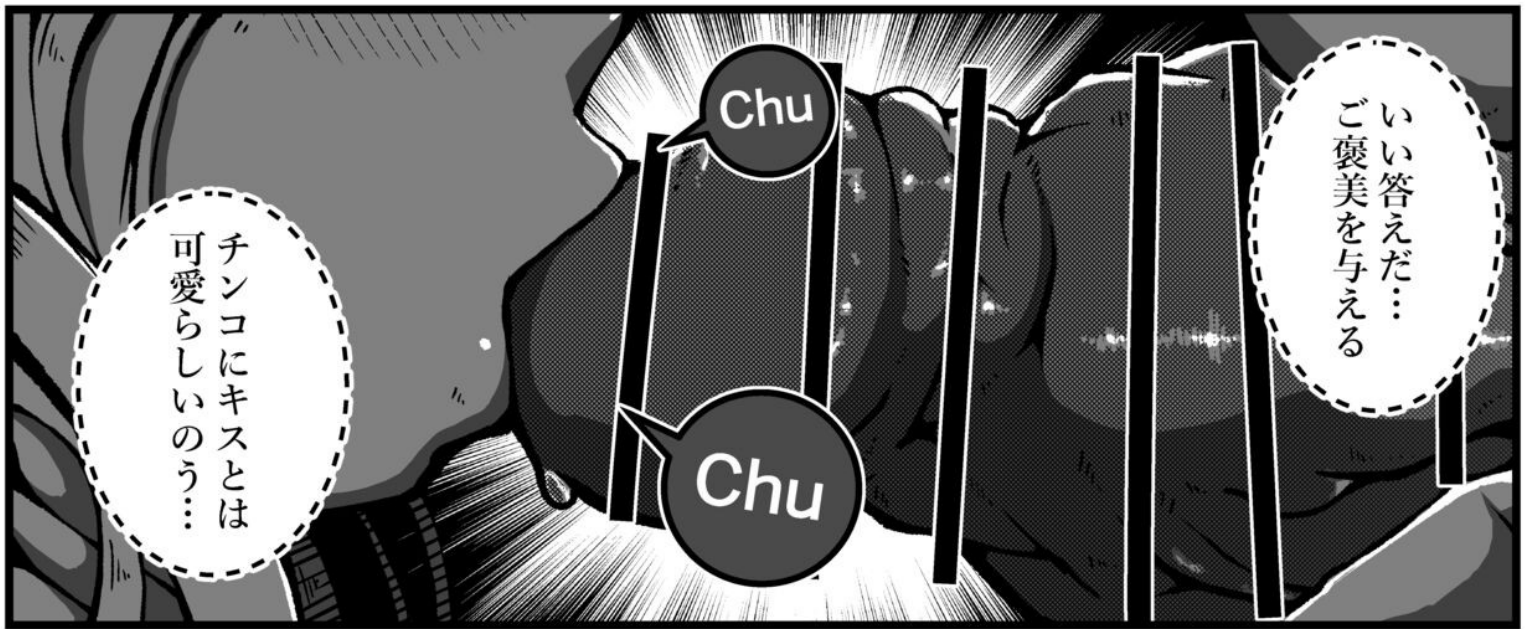
人間の雑魚精子が
入ったままじゃ
気持ち悪くて
我慢できません♡

神精子で
浄化して
くださあい♡

はあい♡

ハッ

フ
フ
フ



彼の違って
深く刺さって
さいこおお♡

ああん♡

はん♡

うへえ♡

ふひ♡

おほお

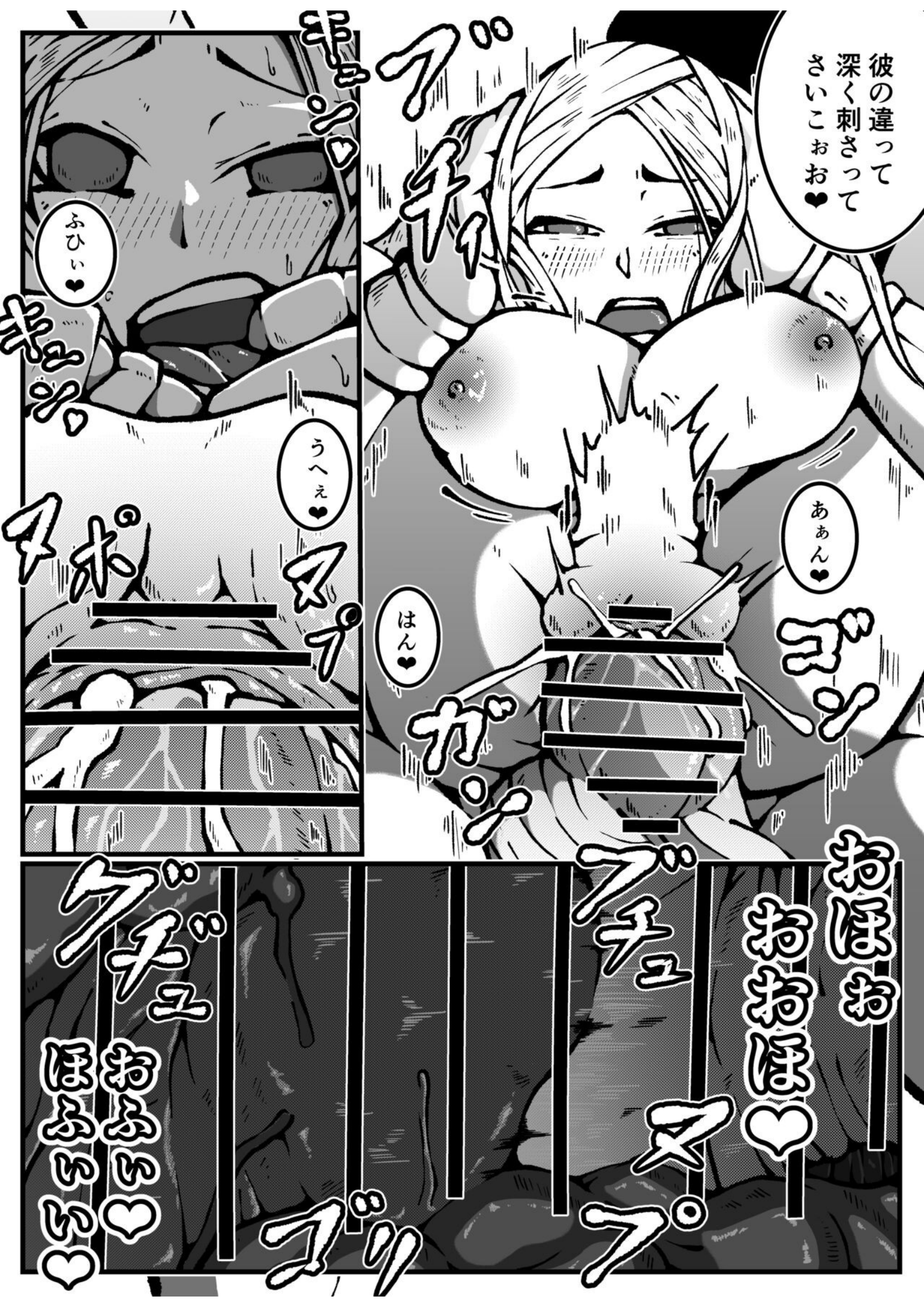
おほお♡

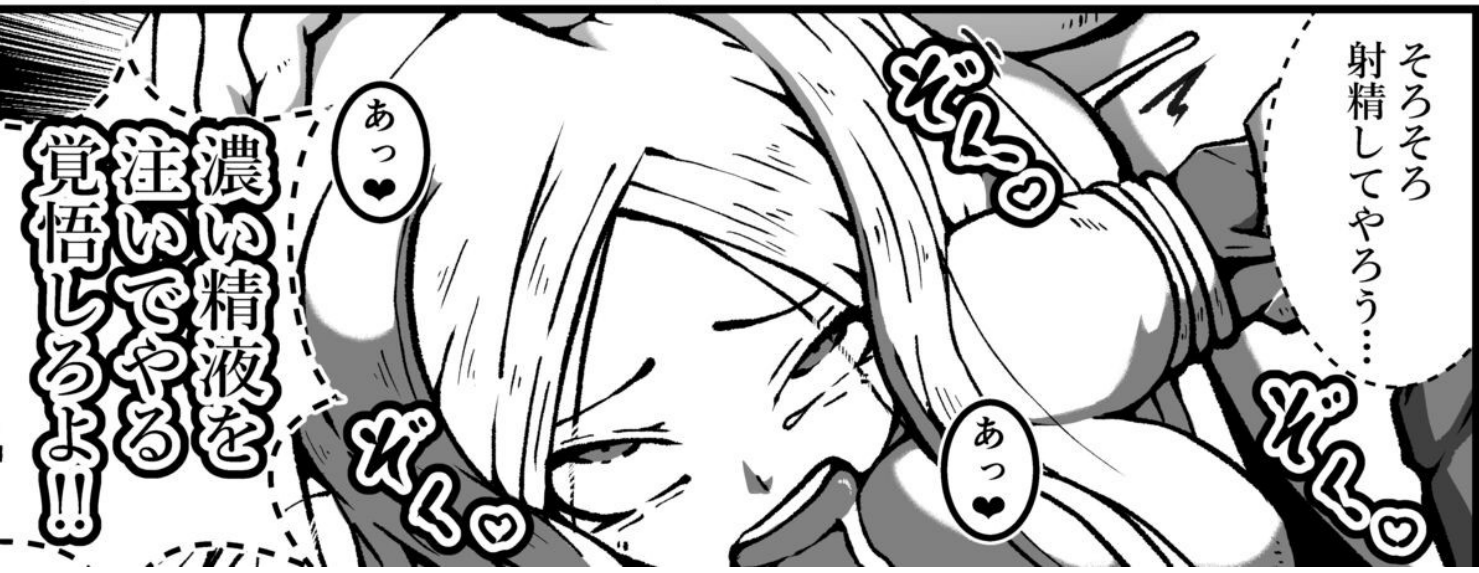
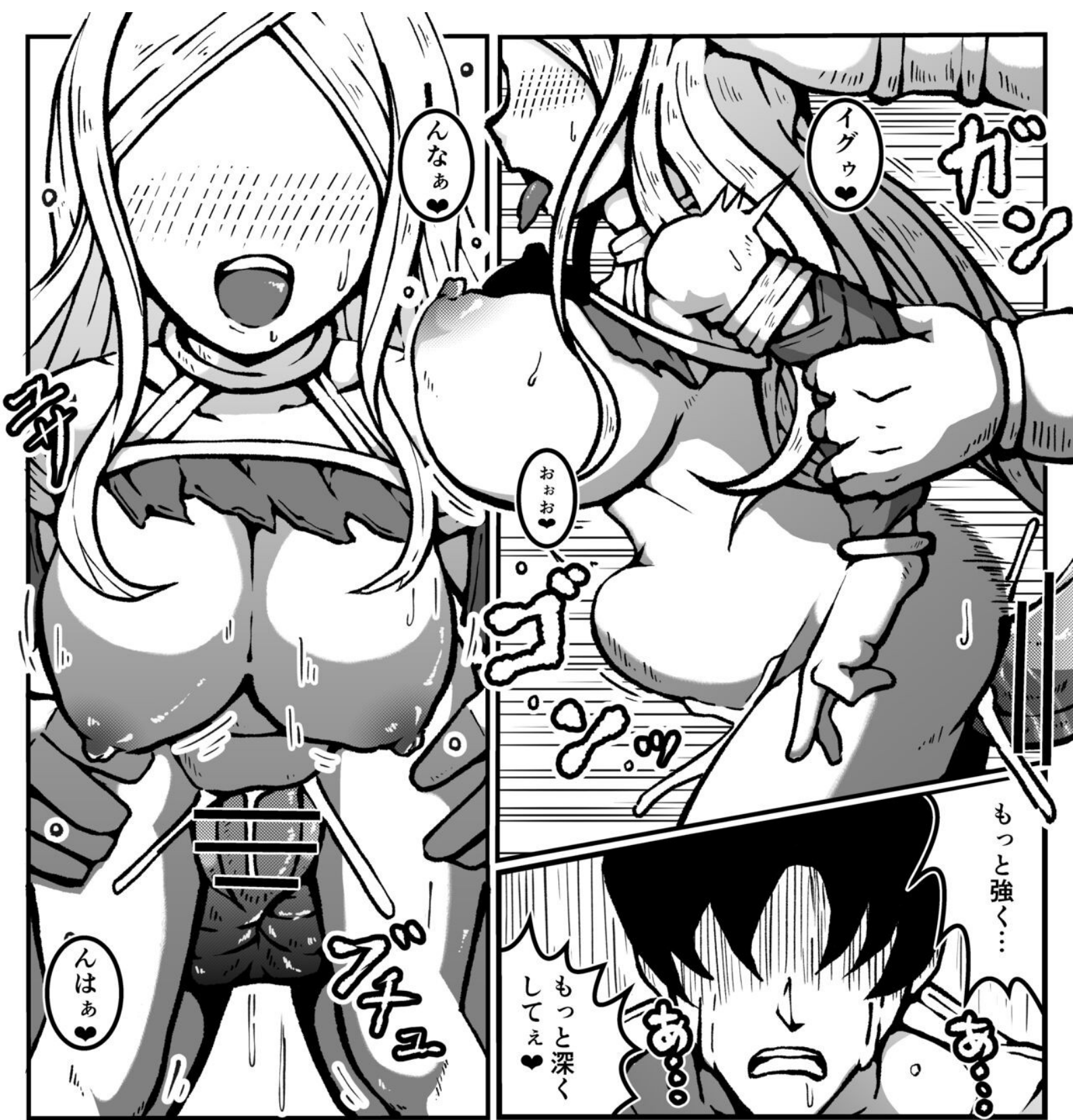
ググ

ググ

ググ

おほお♡
おほお♡
おほお♡





んなあ♡

イグウ♡

ガン

おおお♡

ゴ

んはあ♡

ブチユ

もっと深くしてえ♡

もっと強く...

あっ

あっ

濃い精液を注いでやる覚悟するよ!!

あっ♡

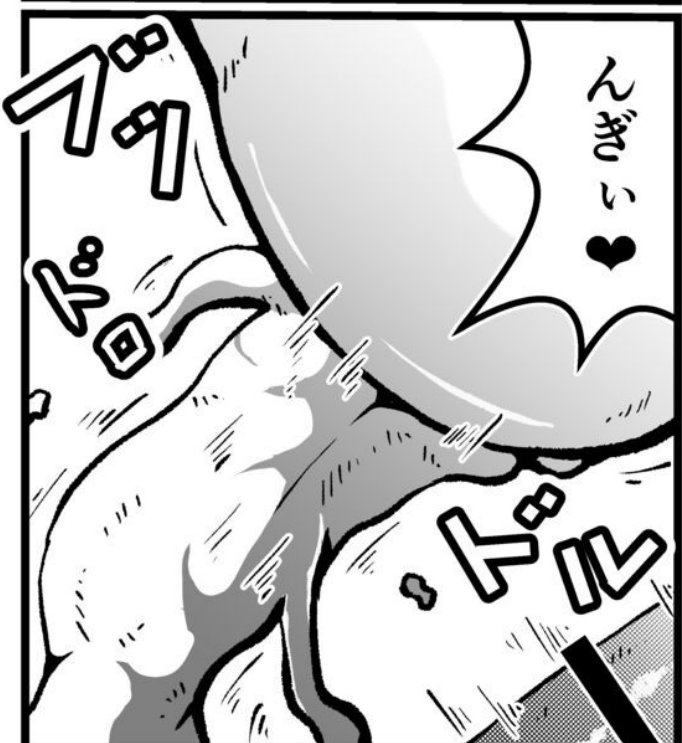
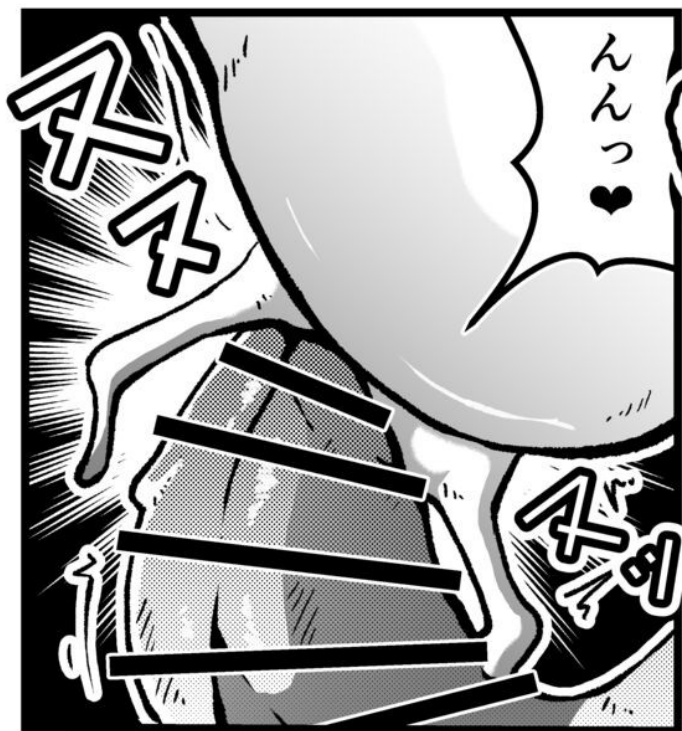
あっ♡

そろそろ射精してやろう...

びん

びん

びん



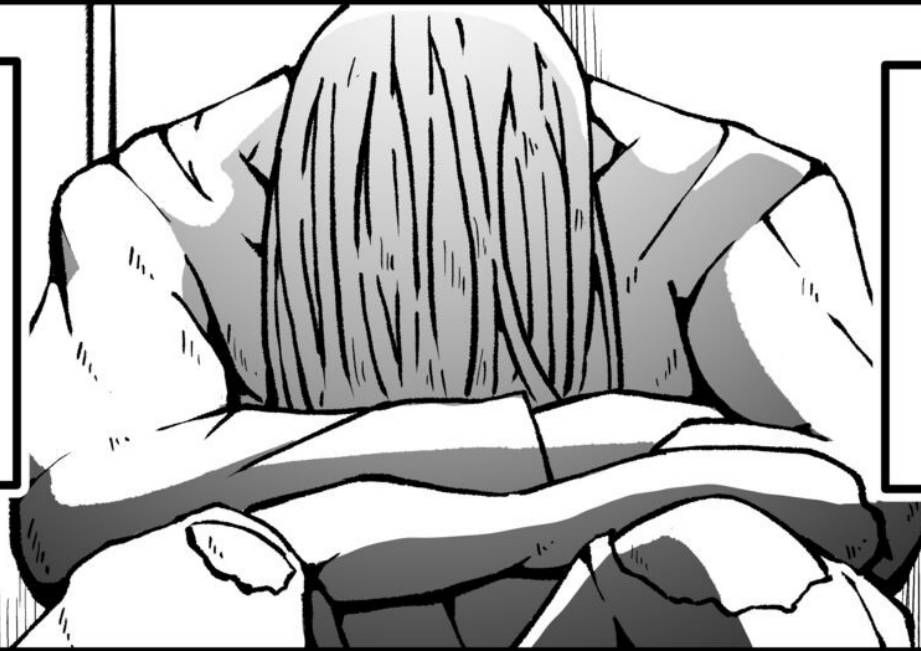
そして
神の下僕に
なった

こうして
俺は神との
賭けに負けた…

んんっ

あれから数年
神のもとで
奴隷の様な生活を
していた…

そしてその生活の
ストレスで彼の
髪は真っ白になった…



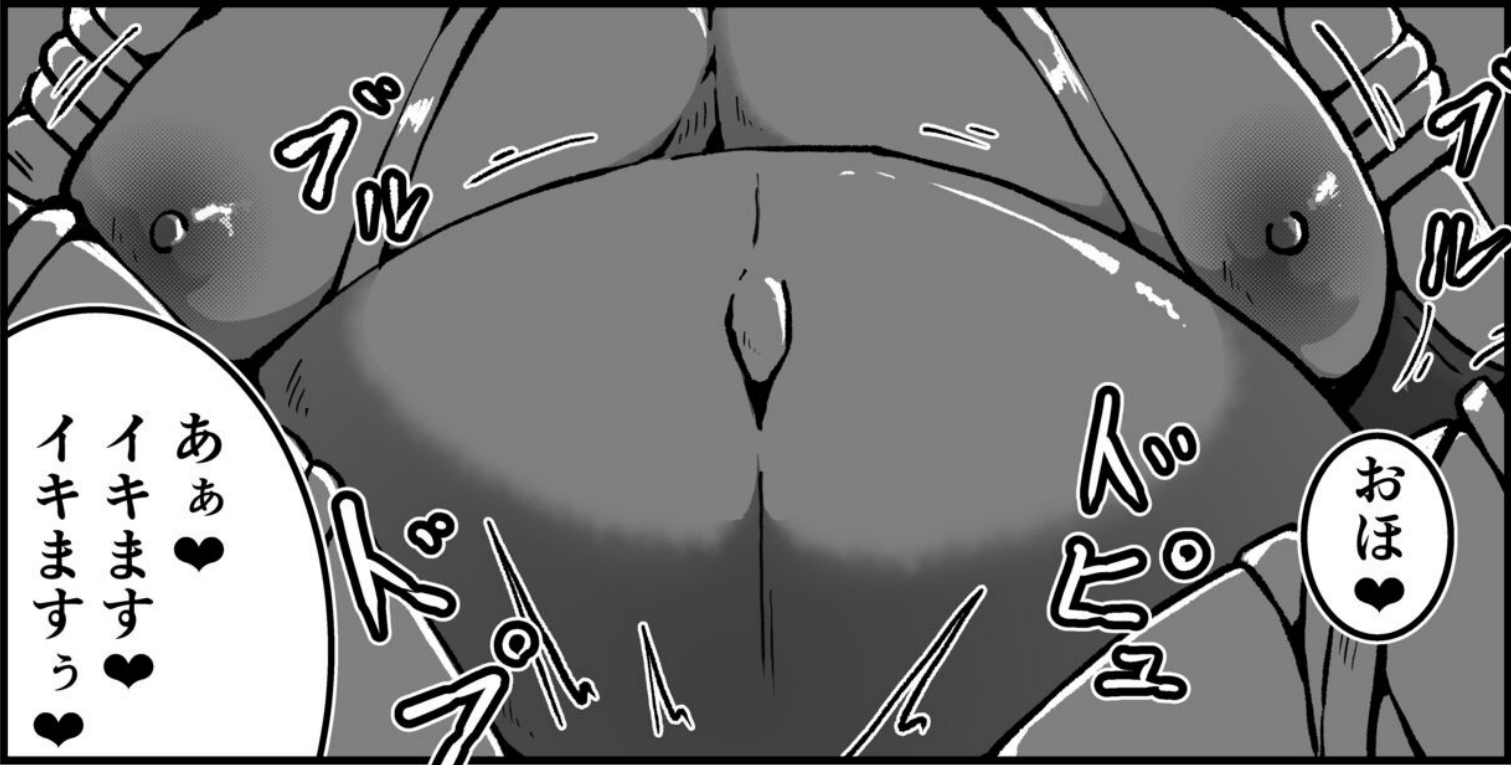
床が汚れてしまった
掃除をしてくれ…

はい…



おほ♡

ああ♡
イキます♡
イキます♡
♡



はあん♡
またイキました
まだ続けて
ください♡

ハハハ
汚してしまっただな
まあ気にせず
掃除してくれ

彼女はこれからも
幸せそうに乱れ
生まれる子と
一緒に生きるのだろう。

ポタ

そして彼は
この地獄の環境で
生きていくのだろう。

神に奪われた女
と
神に奪われた男